

昭和三年三月十三日招集(第三号)

第一回市議会定例会々議錄

館山市議会第一回定例会々議録（第三号）

昭和三十九年三月招集

一三月十三日（金曜日）

議事日程

第一議案第四号 議決、変更について

第二議案第三号 火災対策事業用小型トラックの購入について

第三議案第一四号 館山市税条例の一部を改正する条例の制定について

第四議案第二五号 幼稚園保育料徴収条例の全部を改正する条例の制定に

ついて

第五議案第二六号 館山市財政調整積立金う処分について

第六議案第二七号 里見氏石城復元資金積立金条例を廃止する条例の制

定について

第七議案第二八号 指定金融機関の指定について

第八議案第二九号 館山市営館山プール使用条例の一部を改正する条例の

制定について

第九議案第三号

館山市国民健康保険税条例の制定について

第十議案第三号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

第十一議案第三号

館山市青少年問題協議会設置条例の制定について

第十二議案第三号

館山市職員の被服等貸与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第十三議案第三号

館山市連絡委員設置条例の一部を改正する条例の制定について

第十四議案第三号

館山市監査委員条例の制定について

第十五議案第三号

館山市立小学校設置条例の制定について

第十六議案第三号

館山市立中学校設置条例の制定について

第十七議案第三号

館山市立高等学校設置条例の制定について

第十八議案第三号

館山市立幼稚園設置条例の制定について

第十九議案第四〇号 館山市営プール設置条例の制定について

第二〇議案第四一号 部課設置条例の制定について

第二一議案第四二号 館山市と畜場の設置及び管理に関する条例の制定について

第二二議案第四三号 館山市火葬場及び葬祭用具の設置及び管理に関する条例の制定について

第二三議案第四四号 館山市営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について

第二四議案第四五号 館山市財政調整基金の設置管理及び処分に関する条例の制定について

第二五議案第四六号 物品購買基金の設置及び処分に関する条例の制定について

第二六議案第四七号 館山市行政財産使用料等に関する条例の制定について

第二七議案第四八号 議会に議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の制定について

第二八議案第四号 議会の議決に付すべき公の施設の独占的利用等に関する
すき条例の制定について

第三〇議案第五号 館山市水道条例の設置及び管理に関する条例の制定
について

第三一議案第五号 館山市清掃事業運営審議会設置条例の制定について

第三二議案第五号 館山市固定資産評価審査委員会委員選任に
ついて

ついて

第三三議案第五号 館山市取組員定数条例の一部を改正する条例の制
定について

定について

第三四議案第五号 清掃条例の一部を改正する条例の制定について

第三五議案第五号 市道路線の認定について

第三六議案第五号 つつとら購入について

第三七議案第五号 館山市建設計画の変更について

三月十三日午前十時十分

開会

副議長（松本藤太郎君）本日出席議員数 二十六名。

ニハ、第一回市議会定例会第三日の会議を閉会いたします。本日議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

この際おはかりいたします。本日議事は議案の朗読を省略し、簡明かつ適切な説明を求めるところにいたりたいと思ひます。この中、是議でございますか。

一、番（辻田実君）議案の朗読を省略ということでございますが、配付された各議案の中におきます自治法改正等は、条文についてよくわかりませんので、この点につきましては、第何条によるということを読んでいただかないと内容がわからない面が多いので、その点につきましては朗読していただきたいと思ひます。

副議長（松本藤太郎君）議長がおはかりしたうは、議案の朗読です。条文の朗読は説明の中で朗読するところがあれば、

朗読してもらおうということではないがです。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君)より異議なしと認めます。よつて以上の通り決まりました。

日程才一議案第四号を上程いたします。

・総務課長(山口実君)議案第四号議決の変更についてより説明申し上げます。

本件は去る三十八年三月議決による起債の限度額の変更でございまして、地方自治法二百二十六条の規定によりまして今回二百三十万円に変更しようというものでございます。

この起債額が二百三十万円は先般竣工した館野小学校校講堂工事費四百十四万九千円に相当するものでございます。副議長(松本藤太郎君)以上で質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)や異議なしと認めます。よって議案
第四号は原案通り可決さしめました。

日程第二議案第十三号を上程いたします。

建設課長(新井重助君)議案第十三号について中説明申し上げ
ます。失業対策事業費におきまして年々就労者の数が
減りまして、私どもが計画したものに對して人員が減つて参
りまして、それに伴う労力のカバーといつて、まして小型ト
ラックを購入いたしまして資材の運搬及び人夫の輸送に
資したいと考へまして、日産ジュニアートン半のトラックでぐ
ざいます。これを買いまして幌と椅子を付けて定員十人
の輸送ができることになつて、労力の不足を補つたところ
に工事の完成を期したいと思つておりますので、この購入先
につきましては干葉日産株式会社と随意契約によつて

購入いたらないうでございす。

・副議長(松本藤太郎君) 本案は討論省略原案通り可決するに
 由異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君) 由異議なしと認めます。よって議案
 第十三号は原案通り決定さし置きます。

日程第三 議案第十四号を上程いたします。

・税務第一課長(高木哲三君) 議案第十四号について由説明申
 し上げます。

この条例は今まで館山市におきましては、固定資産税で標準
 税率を〇・一上回る都市計画税におきまして百分の〇・一
 下つてありまゝたる標準になおすように第六十二条、これは
 今までの条例でいさますと、固定資産税の税率は「百分の一
 とす」となつておりまゝたるを「百分の一・四」に引き下げまゝと

都市計画税におきまして「百分の〇・一」を「百分の〇・二」に上げたいというものでございます。これによりまして、かわるところは償却資産におきまして償却資産は、都市計画税ばかりで、百分の一だけ下ることになり、参考資料の調定額でございますが、標準税率になおしまして、場合の額でございます。

セyen万四千円減る計算になっております。これは償却資産が〇・一下ることになります。

ほかの税金でございますが、土地につきましては、農地については前年度の価格を置きで課税いたします。宅地・山林・原野につきましては、今度評価がえになります。宅地におきましては、平均上昇率が三・三三倍ということになっております。山林で二倍、こうなっておりますが、課税標準は宅地・山林・原野において、何倍になつても、昨年の二〇％を越えてはいけ

二 第四節
いといふことになつておりますので三十九年より四十一年までの
固定資産税につまみては二〇%を越えて課税するこ
とはございません。

家屋はやはり昨年と同じ額をすえ置くということになつて
おります。

この特例は四十一年まででございますので四十三年より先には
考慮するということになっております。

償却資産の課税標準額でございますが、二億六千万極
大捕鯨が今まで果々方針にすぎますと、外航船舶は非
課税ということになっており、また三千トン以上、船に對
てのみ非課税で、キャタリーボートあたりは課税できること
になつておりますので、課税標準額でやる。

それから土地課税標準、非課税でございますが、田と畑
が入っておりますが、これは今年まであり、また農地が宅地

山林・原野・雜種地、その方に一万二千筆移動になっておりま
ーたので、これだけ減っております。

こう税金面では現状でいたいますので、農地法とはちよつと矛
盾したところがございます。そういう趣旨になっております。

〇二九番（鈴木市蔵君）税務課長さんにお伺いいたしますが、固定
資産税と二重取りみたいな考え方を持っておまののですが、なぜ
ならば、固定資産税の評価する基準というものは、都市計
画と固定資産税と同じようにして課税しているということがい
えよ。と同時にこれは今まで、百分の〇・二ということば承認して
おったんですが、〇・二今度は上った。これはどういうわけで自治
省あたりから〇・二上げなければならぬというふうな公文書
がきておるか。それとも、熊本市の都市計画としてどうしても
〇・二なければ道路とか、そういうもう設備に困るという根拠
がありますか。この点を伺って見たいと思います。

それから今までの〇・一だった税額と〇・二になった場合の比較を
教えていただきたいと思います。

・税務第一課長（高木哲三君） 税率が「百分の一・四」と都市計画
税が「百分の〇・一」これは標準税率でございます。

県下十八市ですが、全部「百分の一・四」でやっております。
館山市が「百分の〇・五」この数字でございます。

償却資産を多く持っているところでは結局〇・一だけ多いこ
とになります。企業誘致とかいろんな面でやはり標準税
率にして置いた方が市としてやいいということになりますの
で下げたわけでございます。

一例を申し上げますと現在、三崎勝次郎さんところで一億三
千万の船が一月頃できることになっておりますが、丸高あ
たりでは館山市は税金が高いから三崎の方に向かすとい
うふうになっておるわけで、そういう点からいっても世間な

みる税率を置いて置いた方がやりいいことになります。

また旅館あたりも客室とかいうんな客室にあります。調度品、こいもやはり償却資産になっておきますので、いんな面からいきましてやはりよそ並みの税率にいた方が税務上のためになさうではないかと思つて標準税率に三十九年から評価がえう年でありまして提案に次いであります。

それから都市計画税でございますが、三十九年で課税標準でやった数字が「百分の〇・一」でありまして数字が五百二十万三千円、それから標準税率にして「百分の〇・二」にした数字が千五十六万六千円、こういう数字になっております。

・二九番(鈴木市蔵君) 償却資産税がどうこうということではなく、館山市は今まで都市計画税を〇・一取つておつたものを現在ある条例において〇・二取る。その場合には政府の方からでもいうても〇・二取らなくてはいけないというような指令が

きたか、或いは公文書がきたか、それとも市が都市計画事業がよいなためにどうしても〇・二取らなくてはいけないかというふうに聞いた。おまえのいうのはわけがわからない。もう少し勉強しろ。

・税務第一課長(高木雄三君) そういうような指令はきておりません。
 ・二九番(鈴木市蔵君) どういうわけですか。やったか。今までの〇・一でやってもらったものを〇・二取るのか。市民に負担がよいことになるわけだね。指令うこないものか。どういいうわけで、館山市でもって〇・二というふうにしたか。だからさっきいった通り都市計画事業がよいことになるために取るんだという一ツクリの根拠を教えてもらいたい。標準税率ということをいわないで〇・一だったものを〇・二上げたというものはまずいんではないか。こういうわけだ。この点、助役さんにお聞きしようか。

・助役(小出武男君) 今回たゞいま課長から説明しただけに

税率を改正いたします。趣旨は先ほどお話した通りでございますが、一応、今改正する原案が如何にやっているか、ばならない標準税率であつたわけでございます。館山市の特珠事情

は、都市計画税のごときは、当初きめるときに都市計画区域が全部でなつた。いうならば旧市街に多く比重を置いて置いているというふうな関係から、この際都市計画税は低い率に置いて置いた方がいいんではないかという気分が相当あつたと記憶しております。ところが最近、は全市が都市計画区域に編入されておる現在、あくまで今まで考へ方ていくよりも、やはり標準税率になおす方が妥当ではないかという考へてございします。

それから都市計画税と固定資産税の個人負担の額でございしますが、こゝは先ほど課長が説明したように本人の出費にはかわりはないとせん。ただ市全体から申しますと、償却資産の分が減ります。それから固定資産税を下げま

すために減りますから、市は、その点、財政的に不利ではございそうですが、やはり年度切りかえに、この機会になおさなければ、この何年か遅れますので、この際、是正して、国の基準に、よって標準税率になおしたい。こういうことでございます。

・二九番（鈴木市蔵君）償却資産税が減るから、財政上、市として、よいにならないか、という助役さんの説明だが、償却資産というものは、我々貧乏人には、わからない。

固定資産税は、二十坪でも十坪でも、金がかかる。この改正は、金持に味方して、貧乏人に味方しない。答へる人には、困る改正を、いふ。

償却資産税を上げても、貧乏人の方が下ればいい。

貧乏人の代表だから、そういいなくはないけれども、この点について、もう少し、研究してもらいたいと思います。賛否を打ち切ります。

一番(辻田実君)の連いりまゝでもう少し突きつめてお伺い
たいわけでございますけれども都市計画税の百分の〇・一上と
いうことに対してまゝでは私はこの説明書を見ますと特に宅地
において三・三三倍というふうな形が出ておるわけでございます
私は今申さないうに特に助役さんが個人当りの税金の
額に対してはかわらぬんだということをおるわけでございます
ますけれども。一かゝ。私は表面的に見ますと、そういうふう
にも何かわりますけれども実際の内容を見ますと館山市にお
いて相当たくさん低所得者また自分かゝ家々宅地を持たない
で、借家とかアパートに入っておる人が相当おるのではないか。
そういう人たちについてはこの都市計画税の百分の〇・一の上げと
いうものは税額が倍近く上つてくよという解釈が出てくよでは
ないかというふうに思ひます。疑いまして私はまず第一点と
いたしまして館山市におきまして固定資産税に対して大

きく分けて百万以上の人と百万以下の人、五十万以下、十万以下、三段階に分けてどう位う数があるかということ、これは金持に非常に有利特に私は、こゝ中で問題があると思うのは、宅地とか生活に必要なものに対しては、課税を高めていく、さらに品物、償却資産とか、そういうものに対しては、安くしていく、こういう形では、私は問題が出てくると思うのでございまして、その点について私は内容について説明の申すに如えていたいただきたい。先ほど助役さんがいったように、個人については、同トだという層は、どう位あるかの明示をしていただきたいわけでございます。

もう一つは、今申し上げましたように生活するに必要なのは、固定資産について、はかり大がかりな値上げになつておるけれども、実際に農地という面については、保護しなければならぬ面がありますけれども、そういうものについては、金銭を生んでいゝわけですから、生産してゐるわけですから、その面を下げ

ているということに矛盾がある。先ほども課長さんから説明が
ありましたように、館山市は償却資産が高いので、例えば事
業をしないで三崎の方に行くということであっても、そういう趣旨
であるならば、私はこの固定資産税を下げてでもむしろ全銀
的には現時点において税額というものは、低くなまわもしん
ませんけれども、カー、そういう丸高とか、ああいうところの
船が三崎に行くのがこっちにくるというものを市が計画的に
この位税額を下げては、この位、償却資産を持つ会社
は、こっちにくるということでは、税額がバランスが取れるのか。低
くなるか、ということを考えてなければ、今度、改正については、
生活が低い人に対して、偏重だというふうに思われるです。
けれども、その点について、中説明をいただきたいと思えます。
・税務第一課長（高木拉三君）現在、固定資産の評価でござ
います。農地が時価の三分の一程度、宅地に参りますと

十分の一程度の評価になっております。

家屋はやはり三分の一程度の評価になっております。

その客体もバランスが取れませんので、今度評価がえをしたわけでございますが宅地の三・三三倍にはなっておりますが場所によっては下っておるところもあります。三・三倍以上上っているところもございます。かようなわけで自治省におきましても、これをそのまま用いますと時代家賃に直接影響をいたします。いろいろな面で影響がありますので二〇%以上上った分については二〇%頭打ち、下った分については下った分で、課税標準にするようなという指令が出ております。

・助役(小出武男君) だいたいまだ田舎員からの質問でございますが、個々に見ますると若干そういう点があるかもしれませんが、二〇%は認められますが、大局に見ましても先ほど申

しますように。この際やはり国々示す標準税率に持ってい
くというものがわかれわかれ常職であるということとでそういう点は
若干ございますが、そのことはもうすでに何年前からやってい
なければならぬことを今やる。修正案を出すことでございま
すのでよろしくお願いいたします。

○番(井田実君)最初のところですから、宅地とか住宅に
ついては従来三か一ということでもって農地、そういうもの
から比べても低いというふうにいわれておりますけれども、私は
当然であつていいと思う。場合によつては、全然収入がないと
いうような人もあります。そういう人については、宅地を持って
いるということで自分う生活をするということについて税金
が取らなければ税金は納められないという状態が出て
くる。そうなければ、少くとも生活する宅地、家屋については、
きるだけこの範囲内でおさえていくべきではないかという

ふうに思う。

ただ今、説明の中にありまゝたように、完地とかそれなりが
が上。地代が上というふうなことで、もって二〇％前後でおさ
ていくというところをいれておきまゝに、けれども三・三三倍と
いうことになる。それを上回わる。指令とかなんやで、
さへ、それも、特に完地については上回わる面が出る。

こういうふうに思いますが、でも、点について、今の答弁の中
で矛盾してなかつたかというふうに思うわけですが、

もう一つ、助役さんの説明につきまゝては、ごく一部の人について
は、ということもいいますが、私はまだ十分調べておきませんけ
ども、ごく一部でなくて、相当数、三かゝ一位の人については、こ
うむろというふうに思っております。

そう思ひついては、ごくおおまかで結構でございすけれども、
ほんや一部というところで、ごく大体どの程度、パーセントになら

数字で提示していただきたいと思います。

・税務第一課長（高木哲三君）三・三三倍というものは、課税標準ではございまして、実際に評価をした数字が三・三三倍になつては、ありますが、課税標準といつては、一・二倍以上は上げては、いけないということになっております。で、現在では、二本五になつております。税金を對象にした数字でいいますと、三十八年度は一・二倍、数字が正しいということになりまして、その土地の評価ということになると、三・三三倍に評価いたしまして、その数字が正しいということでも、つと矛盾しておりますが、現在では、仮りに証明を取りにおいてになった場合は、二本五でやるといくことになっております。

・副議長（松本藤太郎君）暫時休憩いたします。

午前十時四十七分

休憩

午前十一時〇三分

再開

自由討論

・副議長（松本藤太郎君）休憩前に引き続き会議を開きます
・税務第二課長（高木哲三君）固定資産税と都市計画税につき
まゝでは、百万納める人も千円納める人も結局課税標準
額にすぎまして、合計で「百分の一・六」今まで三十八年
で申しますと、固定資産税で「百分の一・五」都市計画税
「百分の〇・一」今度提案いたします標準税率でいま
まゝでも固定資産税の方が課税標準額に對しまして「百
分の一・四」都市計画税が「百分の〇・二」で結局「百分
の一・六」でございますので、課税標準額の多い、少ないによつて
影響はないことになるわけでございます。

それから償却資産を納める人は四百七名でございます。

・一〇番（辻田実君）ただ今の答弁ですと、影響がないということに

なっています。が、全般的な面については、そういうことにならないかもしれません。個々の面について、実際に納めようということになれば、先ほどの説明からいきますと、六十二条の改正に伴うて減額された分は、百分の十・一なんだから、その分をそのまま、百三十五条の百分の十・一を上げるということは、同トビということは、わかつておるけれども、一・一ながら、その内容において、片方は固定資産とか償却資産とか、そういうものに対するところの課税であつて、片方については、それを基準として、わけられておりますけれども、一・一ながら、この率がわつてくると、実際に今ヨで千円納めてゐる人が二千円納めなければならぬ。それは、單なる十・一という数字であつても、賦課の少ない人に対してはその率は、かなり著しく高い。こういうことが出てこないかということを書いておるわけでございまして、この点について、非常に不明確がある。で、条制改正をそういうことでやらねると、疑問を

持つわけでございます。

従いまうて私はもう一度繰り返して申しますけれども、都市計画税でございいますから、目的が明確になった上に、従ってこれだけ上げなければならぬということか、何ら説明を聞いていない。

ただ単に税額全般うもすはふやすけれども、一かーながら、固定資産税等については、一目と額減らすから、個人について、同じだということも説明していきから、同じではないということをおる。この点についてはっきりいいたくないと思ひます。それについて内容をお聞いておる。％は幾つかということはおわかつておるから、私は旧町村において、そういう問題が、大きく響いてくるのではないかというふうにお思ふわけでございまして、そういうほど、どの数というものを十分に把握した上でやらないと、改正のために、改正、数値的にあつていけばいいという問題ではななくなってくる。その点について、都市計画税の

目的について明確、さらには改正の内容について生じてくる
ところの低生活者、高所得者といふ矛盾について考慮した
上なうか、その点についてお伺いしたいと思います。

・助役(小出武男君) 私から前段についてお答え申し上げます。

先ほどから条例の標準に合わせたいということも一つ考えて
でございます。当然、目的税を上げることについてはそれについて
の目的があらわれてございます。週刊説明した予算でも市
政の通り都市計画事業も年々上って参りまして本年度も
千五、六百万円の費用を投入しておるわけでございまして、そう
いうような時代になつておたということはもちろん上げるべき
理由であることは当然でございます。そういうことで一応この
機会にそれとこの点を一諸に――もう一上げると案を――たわ
けでございます。前段のや答弁といないます。

・一、番(辻田実君) あとその点について課長さんは全然かわらない

といっておりますが、めわらないでいいんですわ。私がいったような面についてめわりはございませんわ。その点についてはつきりしておきたいと思えます。

・税務第一課長（高木哲三君）償却資産を持つていらっしゃる方がかわります。償却資産うない方については、三十八年度も三十九年度も固定資産税と都市計画税を合算した数字にはかわりはありません。

・三三番（高橋文治君）都市計画税につきまゝでございいたします。都市計画税が昭和三十一年に初めて賦課されて、今日で八カ年に相なりますが、この都市計画税はほとんど市街地に適用されて、旧農村の方には使用されてないといえます。農村の方、市民は甚だ不公平な市税であるといえます。非常に不平、不満をいってございしております。

なお、この都市計画税が昭和三十一年に賦課条例が初め

て市会に上程さるゝたときにこの都市計画税は市街地でおそらく使われざるであらうというので相当審議に難航を
しておつたのでございます。そのときに当時、田村市長は
この都市計画税を賦課するについて「国からの補助がプラ
スにならうからぜひ承認してくれ」といふので、税額以上のも
のを何らかう方法をもつて還えするから」といふ話に合
うものと承認議決さるゝのであります。その後今日田農
村の方に対しては都市計画地域にありながら全くその工
事が施行されてないといふことでありますので、先ほど申しまし
た通り何らかうこの不平、不満を解消する対策を強く
要望するものであります。この点につきまゝで答弁を願
ひたいと思つております。

市長（本間議員）高橋議員さんの質問質問に対してまゝで答
えたいと思います。

私は農村地帯が道路やなんかが悪くて悪まよておられない
 というのは現状にあるかと思ひまゝていろいろ農村を回り
 まゝて区長さん等をあたずぬゝて主として道路等を聞いて
 おりますが、自分としましては農村地帯の道路の改良につ
 いては深い関心を持つておるわけでございまして、この際できる
 だけの農村の道路の改良についてやる考えを深くしてお
 るわけでございます。

・三三番（高橋文治君）ただ今の市答弁で了解いたしますが、ご
 ねりつばなしで最後は承認ということに今までの例ではな
 りますが、今の市長さんの市答弁を信頼いたしまして賛同
 を打ち切ります。

・副議長（松本藤太郎君）ほかに市質疑がございせんやうで
 ございますので、以上で質疑を打ち切り討論省略原案
 通り可決するに市英議よりませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（根本藤太郎君）中異議なしと認めます。よって議案
第十四号は原案通り可決されました。

日程第四議案第二十五号を上程いたします。

庶務課長（干場伊右エ内君）館山市幼稚園保育料徴収条
例について中説明申し上げます。

昭和三十八年度幼稚園費の決算見込みを見て見ますと
人件費におきまして千二百十六万千六百円、その他で二百二
十七万八千八百円、合計千四百四十四万四百円ということになつて
おります。

そう又面収入については保育料六百二十三万四百円となり
まして、その差額が八百二十一万、これは市費負担でございます。
ます。

現在干葉果内、公立幼稚園の保育料を調査してみました。

ところ、最高八百円、最低五百円という状態でございます。各市町村とも現在値上げを考えているような状況でございます。また、鎌倉市や保育園の保育料の状況をみますと、最高が一人二千円、最低が五百円、平均七百六十四円となっております。今申し上げましたような状況であります。今回保育料を六百円から八百円とするとも、今まで八月分は徴収しなかったでございますが、八月分を徴収することになったかと思っております。

前の幼稚園保育料徴収条例については二十三年二月二十九日に交付されておたうでございますが、これを廃止いたしまして全文改正いたしたいと思います。

。二四番(島野茂樹郎君)第四條について伺いたいと思っております。保育料の全部、一部を免除するという基準でございませうか、という場合には、どう位免除減額するのだ

という基準はできておりますか。お伺いいたし
ます。

・庶務課長（千場伊右エ内君）基準はまだできておりませんが、一
応考えられますことは入園いたしまして生活保護法による
生活保護、そういうものを受けるようになった場合には一応
これは免除の対象といいたいと考えております。

・教育長（工藤和平君）つけ加えます。それらの認定につきま
ては園長の申請を中心といたします。なお病気等で欠
席したときは当然減免されます。

・二番（石井正君）値上げの根拠については一応わかったのでありけ
いども約三割何倍かう値上りでなお八月を取らなかつたも
うを取るということになつたのであるけれども一般の父兄の
考え方、そういうものが八百円値上りということに了解が
できていますかどうかという点です。

具体的にいいますと聞くと、ころによると、大カ村の方では、
非費常に値上りに対して問題を持ってゐるやに聞いて
ゐるであらうけれども、北条あたりでは、八百円でもまだ安い。
保育園に比べると千円取つてもいいというやうな地域もある。
こういう地域差というやうなものについてどうふうに考えられて
おるや、その点をお伺いしたい。それから八月を今まで取ら
なかつたおを取るこゝになつたやであるが、そうすると一年間や
うちや何月を取らないやうにたか。この点が一つともう一つ
全月欠席者に対して今までどうしておつたか、知らないんです
が、今度これを完全に一カ月休んだ子供に対してでも取る
や、取らないや。その点もさうに聞律ですが、鉄道或いは
教員、敬書、寮官等の園児が現在地において入園許
可さして入園さしてゐるであらうけれども、義務教育でないやで
無理なことはいいないけれども、またそういうものが二三現在

北条地区に入園できないということという話を書いてある
のだが、こういう点を委員会として、どういうふうにか
教育長（工藤和子君）第一点の地域差の問題でござい
ますが、地域差の問題につきましても、私も認めてお
りますので、この値
上げをする前に幾たびか園長会議を開き、こ
の値上げに対する世論なり、反響なりを調査したわけ
でございますが、やはり苦しいことは認めま
したが、積極的な
反対はなかったわけでございます。

それから第二点につきましても、ちやうど中質向の趣旨がわ
りませんので、最後に回わしめて金欠につきましても、今
後も同じような取り方からいさしなけりばならぬと思
っております。一カ月全部欠席した場合、なお二十九日であ
りますとか、十九日といったようなことにつきましても、今
後も同
題として園長会議を開いてある程度、基準を設けた

いというふうに考えております。

それから公務員員の子供の転入の問題でございますが、これは幼稚園に限らずあらゆる学校で大きな問題でございます。学校には定員がありますので、それ以外に入れることはなかなかむづかしい問題が承知するようにたくさんあるわけでございます。これはいつにかかつて園長や校長やの裁量でありますので、できるだけ公務員の転入については、考慮するようになっていることは常々指導しておるわけでございます。第二点、もう一度おっしゃっていただきたいと思います。

二番（石井正君）実は八月を取るといふことになるが、予算書、明細書、一々頁をみると幼稚園使用料の中、十一月になつてゐる。そこで八月を取った場合に何月をぬかすのか、ということを考えて、質問した。これが

間違いであるならば予算書をなおしていただく。

庶務課長(干場伊右エ内君) 条例は一年間全月を徴収する
ということでございまして、予算編成のとき一応十一カ月と
いうことで八月分を徴収しないということでお願ひいたし
ますが、徴収条例の方は一年間全部徴収するということでご
ざいまして、これは、追加予算で考慮しなければならな
いと考えております。

一六番(岡武夫君) 今の点ですが、金欠した場合には免除し
てやるというお考え思があると思いますが、八月金然出てこ
ない子供全部から一月分取るということについては、そこに
精神的に矛盾があると思いますが、できれば予算書
にあるようにこれで一つ予算がバランスがあつてでまたん
ですけれども、八月は取らなくてもやるうではないかと思
いますがいかがでしょうか。値上げについていろいろ

中説明よくわかつておるんですが、政府におきまして公
 共料金、値上げを一年停止したいということと、全国
 高等学校の授業料、値上げについては、文部省から
 通達を出して取りやめるといふようなことで、果立の高等学
 校も上げておけません。幼稚園もその精神からいえば
 幼稚園の保育料をこの際は上げない方がいいのでは
 ないかという気もするんですが、そのことう関係について
 中説明を願いたいと思います。

教育長（工藤和子君）第一点の問題、ごもっともなこととござ
 いまして、我々もその点う矛盾について一応研究いたしま
 した。これは子供が都合によつて金欠するやうでなくて
 国当局の経営上、その他う関係でありますので、いや
 教諭には月給を払わなければならぬというふうなことも
 ございますので、これは十二ヶ月分をお願いしたいと思

います。

第二点、公費料金を値上げ、これはお説の通りでございます。いま、我々もそれに同調するものは当然でございますけれども先ほどから庶務課長から申し上げましたような理由、さらに猶更二回保育料の値上げを行なっております。二カ年おきに今回はさらに三回目でございますが、その前後の経理の状況、即ち何%人件費をまかなつておるか、その他、幼稚園の費用が何%、それにまつてまかなつておるかというような状況、それをこつぷさに個々に数字に現わしてございますが、それにまつて値上げによつて二カ年位は非常に楽になります。であります。まだ足りないやうでありますが、幼稚園の施設の方に回し得る。こういうことも考えます。将来は幼稚園教育が義務化されるやうな世論にかんがみまして、こゝを我々十分育成しなければならぬ。

幼稚園の育成は重点種目に我々上げてございますので、全く財政上、都合で値上げしなければならぬ。

館山市の場合は高等専修校をかねて、幼稚園の公立も六つ持つてゐるということは、ほかの郡市に見られない特別な事例であらうと思うわけでございます。償還ながら公共料金、値上げに世論に反対するやうな羽目におちいたわけでございます。やはり承服したいと思ひます。

○三番(安沢徳順君) 駒津質問でございますが、幼稚園の保育料の値上げにつきまして、私は八百円ではまだ安いと思ひます。むしろ、千円程度が普通ではないかと思ひますが、先ほど庶務課長さんが説明の中に、幼稚園の保育料に最低が五百円、七百円、というやうなことがございまして、いさしそれを中心研究になつた方がよろしいではないかと思ひます。保育園の一例を申し上げようはどうかと思ひますが、保育園

う保育料は処置見になった場合は、六十名定員でござい
まして一人に対してニテ二百五十円保育料が払うわけで
ございます。処置見になりますと、A・B・C・D、D階層
の収入のある家庭ではニテ二百五十円を徴収するのが基準
になっております。

A階層が生活保護を受けておる人でただでございます。
B階層は母子家庭で収入が少ない母子家庭もただで
ございます。

C階層が今申します、固定資産税を納めらいます。五百
円、七百元、二億円づつプラスになって七百元、或いは九百元
は固定資産税によってきめられております。最低五百円
というふうになっております。でございます。

その差額は厚生省の方から交付になっておるのでございます。
ます、むしろ私は幼稚園の保育料というものは、館山市

は、この位が当然ではないかと思つてあります。が、この八百円を取らねば、そして、園籍のある子供が一日こゝくても保育料を取るのには当然ではなからうかと思つています。

なお、八百円は保育料を取らねば、市でどう位負担するか、それを伺いたいと思つています。

・教育長（工藤和平君）値上げをお願いいたしまして十二カ月かといたしますと、市は持ちこたへは、四百九十五万三千円というふうになります。

・三四番（山本昇君）教育長さんにお尋ねしたいのですが、この幼稚園の使用料、値上げにつきましては、先ほど教育長さんがお話になつたように、過去二回にわたりまして行なつております。その都度、この問題につきまして、論議をいたして、少くとも義務教育優先という立場において、幼稚園は、でき得るならば、独立採算制で、いつてほしいという議会側

の要望もあつたことも承知かと思ひます。

そうしたことと考えまして、今回そうしたことにより、年間八百万以上、持ち出しが、あつたのを、今度、値上げによつて約五百万円足らずにおこえるということであり、今度、そういう考えで、独立採算制を取る考えで、おらるのか。どうか。この点を第一点にも伺ひたい。

第二点といつて、これは、関係でございしますが、本年、幼稚園の入園の問題につき、いろいろ問題が起きております。これは、どうのことかといひますと、同じ市立の幼稚園であり、教育委員会が指導をやつてゐる。この幼稚園の募集に、当りきつて、基本的な方針が、教育委員会として打ち出されておるのか。この募集方法は、単に園長にまかして、あつて、適当に、各幼稚園で、やるように指示したのか。それとも、教育委員会として、統一した見解のもとに、基本的な方針

を打ち出してあるのか。その点をお聞きしたい。

本年におきまして例を申し上げますと、神戸の幼稚園におきましては、早くから有線で各家庭に連絡いたしまして早く申し出てもらいたい。もし人員がいっぱいになると締め切るからということであたという。そうして人員がいっぱいになると同時に有線でもういっぱいだから、これ以上受け付けないという失着順によるところを方式を取つてある。また、館山の幼稚園では、これは無制限にというところと語弊があるかもしれない。希望者を全部受けたいということである。北条の幼稚園の場合においては、やはりたくさん応募者があつたためにいろいろ委員会と話し合ひの結果に抽選によつてやつたということが、具体的に現れてゐる事実でございます。園によつてそれぞれ募集の方法が違つてゐるということは、私も納得できないのであ

りますすが、これについて今年はどういうふうな指示があつたか、同時に今後どういう方針でやられるのか、この点を中説明願いたいと思います。

・教育長（工藤和平君）ただ今、市費向にお答えする前に、安沢議員の市費向に対する誤謬がございまして、持ち出し七百万円。

山本議員の市費向でございしますが、第一点、幼稚園の費用については、独立採算制を堅持するや、こういう市費向のようでございしますが、これは我々教育委員会に、ご厄介になつた当時、我々うがは、幼稚園と高等学校である。率直にいつて、こういうふうな問題に、~~取り~~組んできたわけではございまして、独立採算制、もちろん、そうせねばならぬと思ひますけれども、やはり教育であります以上、ソロバン勘定だけではいけない。できるだけ、その線に持っていく。こういう

こととございます。将来もそういう方針でございます。

第二点、今回の幼稚園北条幼稚園の問題でございますが、これは大へん皆さん方の中、迷惑や心配を掛けて我々が不手際を反省しております。

ただこの問題につきましても、昨年も同様な問題がありましたので、事前にいくたびか園長会議をこの問題についての審議をしたことがございます。

三十九年度の募集については、いかにようにするか、我々が考えはこうである。我々も基本線は打ち出してございます。一か一ながら、学校や方には、教育委員会の方針と最後にわたっては、園長や校長や運営権限があるわけとございます。

子供を採育については定員その他期目、これはおろすから、教育委員会も基本方針によってきめらるるものであります。

問

思いますけれどもいかにして取るか。こういうことについてはこれは全く園長が裁量に任せねばならぬと思えます。

特にこれを画一してよい。やめた方がいいではないかという論もございまして、先ほど中實向がございましてなように、館山の幼稚園の実際は北条地区と富崎地区ではいろいろな情勢が違います。従いまして園児の多い殺到するところは大体北条の幼稚園と館山の至館形、こういうふうな考えられるわけでございします。従いまして、その実際に従った募集の方針がいいではないかという結論にまでつたわけでございします。実は先着順ということについては、問題が残ると思えます。例えば知らなかつたとか或いはどうしても家庭の者がいけなかつたとか、事故もあり得るわけでございします。うで先着順については、我々も多少不安を持つたわけでありまして、けれども、絶対数がそう多くないであろうということで神戸では

こういう方法を取ったと思ひます。

なお、将来どうするかというやり質問でございますが、私も
は、今回にかんがみまして、幼稚園全部の問題といたしま
して、今後う対策を研究したわけでございます。

機会均等の立場からまだ設置さへない土地もござい
ます。またすでに設置さへして、独立園舎を持つて
おるのは、北条館山だけでございまして、その他は持つてお
りません。このやうな問題、さへにかわりまして、現在の園舎
でどれだけ収容能力があるか、さへすめ北条の幼稚園に
ついては、来年度どうするか、こゝをいろいろ検討しまして、
基準に照らして現在の状況で一年保育にするか、二年
保育にするかという問題を考究いたしまして、こゝはもつと
時間をかけて、小学校のあいてる室を使うということもござい
ますが、もつと時間をかけて恒久的な対策を樹立する。こゝう

いう結論でありまして、今こうだということはいいい切れないわけ
でございます。

・三四番(山本昇君) そろそろですと、委員会としては募集の問題
につきましても統一した方法でやるということについては、まだ、
はっきりした結論は出ていないということなんです。

・教育長(工藤和平君) 募集の方法につきましても、根本的な定
員でありますとか、期日とかは定めますけれども、あと、実績
が違っていますので、今年のように定員がどうこうという問題に
つきましても、もっと時間をかけてもう少研究して見たいと
思います。

・三四番(山本昇君) もう一つ質問したいと思ったりですが、教
育長が触れなかったが、来年度からしますように、そういう希望
が多くなるということも一応考えられますので、その対策とし
て、いわゆる一年制、二年制の問題も、おろすから出てくると

思います。そうしたこととも考えられますので、これは一つ十分検討をしまして今年のような各地区によってそれぞれ違ったような施策をなさしていろいろな問題が起きてはどうかと思ひますので、根本的にこの問題を解決してそうして円満な教育行政の運営ということをお考え下さいますように希望をいたしまして、一応質問を打ち切ります。

・六番(秋山六三郎君)第三条の八月分の保育料を徴収するということに関係する問題でございますが、先ほどどう答弁或いは中説明の中にまゐる。一カ月欠席した子供に対しては、この曲を免除する場合がある。こういうふうにお聞きいたしまして、たが例えて申しますと、七月に欠席したところ、八月には健康が回復しておいた。こういう場合に八月全部取るとした場合に病欠しておいた者を引き続き八月は免除するとか、病欠はなおつても出らぬような状態に

になつた場合、そういう場合にこれを徴収するの如く、その点が極めてはつきりしていないように考えられますので、この点について所見をお聞きたいと思ひます。

・教育長(工藤和子君)病気の点につきましては、これは素人考えで決定するの如くと思ひますので、園の校医がならひます。校医の診断、それを園長の副申によってやつていきたいと思ひます。

・七番(田村源治郎君)なつと教育長にお尋ねいたしますが、前年度八百何万赤字を生んだ。今年は一百万にすれば七百万円位、赤字を持つ。これはいかうして補てんしているか、どこから出ていふか、また幼稚園というものは、教育上、義務教育の前提であるものをいかに重視しているか。幼稚園というものは、義務教育を受けさせるがために、重大視してある。これは赤字を生んでも、もつと切り下げるべきではないか。六百万

程度にすべきが当然だろうと思つてですが、その点をお願いいたします。

・教育長（工藤和平君）お答えいたします。お説のように幼稚園教育は考えようによつては義務教育よりもまゐると考えます。大体人間イ知能は五才でまゐると申しますので、そういう点から考えますと、幼稚園ほど重大な教育はないと思ひます。先ほど申し上げましたように、三十八年度の赤字といつては、諸弊がございすけれども、市の持ち出しが千三百万円、こういうことになる。我々おゝずから、限度があるのではないかと、いうふうに考えざるを得ないわけです。そうして、その補填という意味で、八百円に値上げをお願いしても、なお、その千百万円という赤字が出るということはいけり、それだけの犠牲をはらつても、幼稚園教育を重視してゐるという我々の考え方がございす。

二番（石井正君）今聞いておると課長と教育長のいうことに食い違ひがある。計数にそれをもう一回はつきりしていただきたい。人件費、市が持ち出し等が違つてゐる。

庶務課長（千場伊右エ内君）昭和三十八年度の決算見込でございすが、これは、総計で千四百四十万四百円、その反面、保育料の合計が六百二十三万四百円、その差額は、八百二十万円でございします。

それから、今年、三十九年度、予算から見ますと、予算額が千五百四十一万円でございします。収入額が八百十八万四千円、これは、一応十一カ月を見ておりますが、一般財源も持ち出しは七百二十二万六千円、それが、十二カ月分になりますと、九百七十七万になります。市が持ち出しが五百六十四万というところでございします。

二番（石井正君）先ほど教育長、千三百万円、持ち出し

二 食 口 計 画
というものはどういふことですか。

・教育長（エ藤和平君）こゝは、私、計算で間違いであるかも知れませんが、三十八年度、歳入が保育料が五百八十七万四千円入つてゐるわけですが、そうして、それが人件費に回つたのが千八十二万七千五百円。こういう計算でございまして、その差額が千三百三万九千六百円。こういうことです。

・一番（石井正君）それでは、時間もかかるので、また間違つてきたら、両方で調べてもういっぺん、中答弁願ひます。

・二三番（中村省吾君）先ほど、島野議員の質問に対して、まして、第四糸の点で、課長の方から、園長の内申によつて、生活保護を受けてゐる者に対しては、考慮する、という発言があつた。その中でも、生活保護家庭のみ、そのことを考へておるのか。それには、免ずる、ということか。一部を減ずる、ということか。その点を、中答弁願ひたい。

・庶務課長（干場伊右エ内君）生活保護法による生活保護を受けようになつた場合でございすが、これは減免してあげたいと考へております。

・三三番（中村省吾君）そうしますと所得による問題等は、差は全然考へないということに理解してよろしうございすか。その他は一切関係ないやうなということですが、段階を作るかということですが。

・教育長（工藤和平君）大へんに重要な問題でございすので、その点についても考へたい。研究したいと思ひます。

・副議長（松本藤太郎君）以上で質疑をおち切り討論省略原案通り可決することに仰、異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・副議長（松本藤太郎君）仰、異議なしと認めます。

よつて議案第二十五号は原案通り可決さるゝた。

こゝにて午前の会議は休憩といたします。

午前十一時五十五分

休憩

午後一時

八分

再開

副議長(松本藤太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
午前中の会議で一番議員に対する答弁の保留が
ございまして……

教育長(工藤和子君)先ほど石井議員から市指摘のござ
いまして幼稚園費用の私と庶務課長との食い違い
でございしますが、結論的に私の間違いでございまして、
間違ひは三十八年度の決算見込みでございしますけ
ども、総額において千四百四十四万四千四百円となりま
す。私は一級財源と間違ひを以て、人件費の増を

考えずに千三百万円と答えたわけでございます。非常に
そこつであつた点をわざわざ申し上げます。

正しい数字を申し上げます。

三十八年度の決算見込み額千二百十六万千六百円、その
他の費用が二百二十七万八千八百円でございます。

千四百四十四万四百円、それが保育料が六百二十三万四百円、
従つて市の持ち出しが八百二十一万ということでございますが、
三十九年度の予算において幼稚園の費用が千五百四
十一万円で十一カ月分の保育料を徴収いたしますと八百
十八万四千円、一般財源持ち出しが七百二十二万六千円と
相なりますけれども、これを八百円に値上げを願ひいたし
ますと、十二カ月分ということになります。た場合には九百
七十七万円ということになります。一般財源の持ち出
しが五百六十四万円ということになります。

こゝが正しい数字でございますので訂正いたします。

副議長(松本藤太郎君) 日程第五議案第二十六号を上程いたします。

・総務課長(山口実君) 議案第二十六号 館山市財政調整積立金〆処分について、こゝの内容は、現在、館山市に財政調整積立金千二百六十四万七千円あり、こゝであります。こゝ千二百六十四万七千円のうち四百万円を地方財政法「第四條の四」市の財政調整積立金条例「第四條第四号」の規定により、一、一般会計に繰り入れ、二、特定財源といたしまして、取目観光費でもって説明、三、た西坪地区の道路にそつた土地約一千坪程度を購入しようとするものでございます。

地方財政法「第四の四」 館山市財政調整積立金条例「第四條第四号」の内容でございますが、その内容は、

「長期にわたる財源の育成のためにする財産の取得等
のため経費の財源に充てるとき」云々といった趣旨がこ
の法律及び条例の内容でございます。よろしく中審議
願います。

・副議長（松本藤太郎君）原案通り可決するに中異議あ
りませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・副議長（松本藤太郎君）中異議なしと認めます。よって議
案第二十六号は原案通り決定されました。

日程第六議案第二十七号を上程いたします。

・観光課長（小沢正治君）議案第二十七号について中説明申
し上げます。

里見氏居城復元資金積立金条例を廃止する条例
の制定についてでございます。こゝ積立金条例は里見

氏居城の復元に關する計画の推進をはかり、この資金に充てるために、ということとで昭和三十三年、九月に制定されたわけでございますが、六年を経過いたしまして、最近におきまして、各般の情勢と、当面城山の開発計画につきまして、果ては計画課におきまして、総合的な開発計画がようやく完成しつつある段階、そういった開発計画の進捗事情からいたしまして、当面公園らしい環境整備を急ぐことといたしまして、この際、この条例を廃止いたしまして、今まで積立てられてきた利子を合めますと、この三月末で三百万円を若干上回ることになります。が、公金によるところの城の建設ということに關しましては、一応たな上げといたしまして、その積立金は一般会計に繰り入るよう、に措置いたしたいというものでございます。

○三番(菊井敏博君)お伺いいたします。諸般の情勢によ

こゝ積立金条例を廃止するということにつきまゝては私は、
一応考える点もあつたと思うのですが、酒田の予算の説明にあ
りまゝに京成から五十万の資金をあついでつづつと植える。
よつて城山を後援するということについて代替のためこゝ案
を出したのか。

二点は現在、南房州有料道路というものができ、京葉工業
地帯の発展に伴つて当地は、館山市は非常なる観光の明
かりを見出したときに、館山市唯一のシンボルでもありノ観
光的において非常に意義あつたこの城山に對し、まゝてこ
ゝ案を廃止するにかわる他の案があるのか。

第三点はこゝ条例廃止によつて起る三百万円の金をなぜ
一般会計に繰り入らなければならぬのか。これは当然、
城山開発のために使う。その資金にしなければ私は筋が通
らないと思うのでございます。その点お聞き下さいと思いま

す。

助役(小出武男君)お答えいたします。第一点は京成からついで購入代として五十万いただいた金という関係でございすが、こゝことは全然関係ございせん。

第二点ですが、これに対する代案ということでございますが、今課長から説明させましたように時代はただ単に築城というところにのみとらわれておると非常に城が開発が滞りてきておるが今までが事実でございます。

そこで条例制定当時、築城という觀念からだいた現在に達してきておるといふことも考えまして、まず一応たな上げにいたしまして、その前に公園の環境を整備して市民が親しめやすい、行きやすい公園地帯にしようといふことに考えを持ちまして、まず公園をさしにする。ついでを植えて、道路を作ったり、展望台をこさえたり、やがては計画

にございますように理想からいいますと、いろいろなホテルとか
郷土資料館とか、こういうものも一応総合計画の中に入
ってあるんですが、こういうようなことは一足りでしま
せんので除々に計画を立ててやりたいということになるわけで
ございます。

第三点の三百万円を一般会計に繰り入れるのはおかしいじ
やないか、こういうやり方理由でございしますが、これは予算の措
置といな—ま—て、こういう場合にはすべて一般会計に
一応入れるというのがたてまえてございまして、その後におい
てそれをどう使うか、私ども考えとしては、また三百万円と
ころか、何倍かの金を城山や開発に向けたい、こういう
ことでございまして三百万円を一般会計に繰り入れる
ということとは、こういう常識でございまして一応一般会
計に入れる、こういうことでございます。

二三番(菊井敏博君)よくわかります。そうしますと、第二案で現在城を作るということは意味なきない。

これは現在う観光面からいきまゝである程度わやります。一わいながらいろいろおっやうに設備をすまうということは、市自体が今後やるか。今まで、里見氏居城を建設につきまゝ非常に私もいろんな話を聞きまゝして市民の建設意欲をなくするといふような話も聞いております。

京成が一億七千万で一階を使用して二、三階は、市が使用する。館山市民は期待しておったんですが、もつともかわるべきものを作るのだということに私も異議ありませんが、今後館山市でやるのか、外資導入でやるのかという点をはっきりと聞かしていただきたいと思います。

それから三百万円は一応一般会計に入らうかということなら、それによつてもつと大規模なものを、もつと大資本を

投入するということはいつ頃から計画するか、その点も合わせて
お聞きいたらないと思います。

・助役(小出武男君)お答えいたします。第一点でございますが、こ
うした計画につきましては、できることから外資導入でやまこ
との方がスピードアップするということとは依然としてわけてあり
ません。ただ、今市指摘するように京城が途中で城を仮つて
どうかという一つの話が出ましたためにすべてが中途半端
になつてしまったという渦まう経験から考えまして、他方本願
という考えを薄くして、できるだけ市及び地元と協力によつ
て基本的なものをやっていたい。
たまたまそろした外資の希望があつた場合には、それらを
勘案いたしまして、取り入れることにはやぶさめではない。
こういう態度で今後やった方が開発が進むのではないか
というふうに考えておる次第でございます。

それから第二点でございますが、今のデスクプランも大資本を導入することになるんですが、やはりつぎまーでは急速にはとうていできないと思います。幸いにかまーで地元が熱意が観光協会、里見会や幹部も非常に熱意が燃えていることを考えまーで、相当な地元が協力能力を振っていろいろ段階にかりまーたうで、私どもとまーでは、市と地元と相ともどもに提携を以て、この計画をなるべく早くやっていきたい。こういうふうに考えておるうでございます。

理想とまーでは、相当な経費を要しますうで、せつかく盛り上ったこの空気を、放させるためにまた皆さんと市相談いたまーして、予算の許す範囲において十分このおつについて、努力を以ていきたい。かように考えております。

○三番(菊井敏博君)もう一点お聞きたい。観光というものは、館山市民あげてやるべき仕事でありまーで、非常にむず

かーくまたふくまでも緊密な連絡が必要だと思っています。
一かーながら本間市政にもあります城山の開発については
遺憾ないようにしたいということについて決意もあります。
で、その点城山公園化の早期実現の根本策を示してま
らいたいと思います。

お聞きしたいことは外資によって開発する方が適切であり
望ましいということを開きまーたが、ニヶが京成から五十万
もらつてつづりを植えるだということにまた京成がこの開
発に余韻を残すというふうにも思つてもよろしいのではな
いでしょうか。そう思っています。

・助役（小出武男君）京成さんの方で城の構築を以て寄付
するということは数年前からの話で、いまもつて尻切れト
ンボであるということは市承知の通りであります。

今回うつつの寄付は館山市の公園美化の熱意が反

映しきいて、そのことは関係ない。寄付であつたと私は考えて
あります。

従いまして、京成さんの方で城はもうやめたのかどうかとい
う念は、もちろんおいてございまして、たから、市の計画
とマッチする時期があつてまた申し出があつた場合は皆
さんとやり取り相談の上、取り入るにやぶさかでない。

結局、これをつつつと寄付したと数年前の話と
間に関連はございません。

○三番(菊井敏博君)そうしますと、京成のみにあらず、城山
に設備しない。ホテルを建てたい。またそれによつて館山の
観光にプラスになるということになれば、市は協力するとい
う意味ですか。

(「そうですね」という声あり)

○八番(西村真次君)仄聞するところによりますと、ただいま、

渠で城山に展望台を作る計画がある。その予算大体四百万円というような話を承ったのでありますが、これは事実でありますか。どうか真実であるとするれば、その形態はどんな形態で建てることになっておるか。また起工はいつか。竣工の予定はいつか。その点についてお伺いしたいと思います。

助役(小出武男君)とりあえず、展望台の問題が今浮かんできておるわけでございますが、渠が当初予算において三百五十万円が城山に展望台を作るという提案中だそうでございます。ところが決定しますれば、市費を三分の一持ちまゝで展望台を作りたいと思います。ところが設計とかそういうものにつきまゝでは従っていまだ未定でございます。

二八番(西村真次君)先ほど申し上げて京成の築城という点については、まだ尻切にとんばであるという

ことですが、いふまでも、その可能性もまだ残っているような
お話でありました。また市として資料館その他を作
るというお話もあつた。また某で展望台を作るとい
うような考えもある。三種三様々のようなまちやうのような関係
にあるように聞かれましたが、こゝろの関連性をどういふう
に統一的に考えていかならうか。ちつと疑問に思
うのでありますが、中答弁を願います。

。助役（小出武男君）歸り返すようですが、今段階は公園
計画として城山にやうで、こゝは市も一体でございます。
京成の方は今申しましたように、こゝは海も山も山の
もとにもまだ全然線が出ておりません。ですから、こゝは、私
ども一応たな上げという言葉を使ひました。が、そういう考
え方で今申し上げました城山南麓が誰むうではないかとい
う基本の考え方であります。

・一八番(西村真次君)了解いたしました。というのは、城山の上
部も広い面積のようにも思えません。展望台を建てた
あとに城も建てる。資料館を建てるということも不可
能だと思っております。たわけですが、幸いに展望台の方
がでる可能性が強いのであるとするならば、ここに附
則でうたっております。三百万余の財源を一般会計に繰り
入れるということは結構でございますけれども、この三百万
円と鼻から出さず三百五十万と合わせてさらに残金の
充実費がかかるかもしれませんけれども、それを契機として何
か一つうっかりした展望台兼資料館。そういうふうなもの
を作る機会があるのではないかと考えますが、この点中意を
とお伺いしたいと思っております。

・助役(小出武勇君)三百万円に非常にとらわれていますけれども
も、これは一般会計に戻入りますれば、一応どこに使って

もいいますけれども、私ももとすれば、城山に今使市
の資金を投入するという観点から、別に今、これをひも付
でどこに使うということにこだわらぬで、もう少し広い意味
において、資金を投入していく。こういう考えでございまして
市で承願したいと思っています。

なおこの際、すぐに資料館をここにプラスしてやるかとい
うことについては、まだ考えておりません。

。二二番（君塚喜三君）まゝ十二月の定例会をここに再現し
というわけではございませんが、どうもふに落ちない点がござ
いますので、質問をいたします。

ただ今も条例廃止のもつとも大きな理由の一つとして、各般
の情勢という言葉が使われた。先般の通告質問の
ときにも、積立金条例制定当時と情勢がだいぶかわ
つておるというようなことを答弁なされておる。そこで、

その情勢変化、どうように情勢がかわつてきておるのか。具體的に申説明がいただきたい。これが一点。今も一応館山城の建設については棚上げをしますかということをおつしやうか。

それならば、なぜ積立金条例というものを廃止せねばならぬのか。先般の答弁の中には、今回、地方財政法の一部改正によつてこの条例を存続するならば、来々からは、この条例の内容を改正する必要があるに迫らるゝて、というふうなことをおつしやうかとある。私が知る範囲については、内容のそれは、法的に何の根拠もない。字句の改正で十分足りるという結論を得たわけなんです。一体、その根拠はどこにあるのか。法的根拠を示していただきたい。なお、あう十二月定例会において明らかになりましたところ、執行部の積立金条例に対する見解をもつてするならば、一かもただ今、趣旨説明の上に立つならば、何もここであえて積立金条例を廃止せぬ

きやたらぬという理由は私には理解できない。

この点について明確なる回答をお願ひいたしたい。

・助役(小出武男君)お答えいたします。第一点でございますが、情勢の变化、具体的にということでございますが、情勢ですから、具体的にということとは、表現がむずかしいのですが、要するに、我々市民感覚と申しますか、そーな気持ちの上で話にたると思いますが、条例制定当時はいわゆる戦争の激動と申しますか、いろいろ築城が全国にほうはいとて起ったものではなかつたかと私も推察するものであります。従いまゝて、議案の審議の方には、中視察願った方もあります。金華山、波牟、犬山城、中視察になったんですが、そーときう向こうの係のいうのは、今城を作つて損することはないといふことは、お互ひに聞いてゐることだろうと思ひます。

一かゝ時代はと申しますか、少しおかげさになりませんが、だい

かわつてきまゝで減というもやう考え方をというもやうが、どうも主観
でございまして、おし付けまわけにいきませんが、かわつてきてゐる
というふうな考えられます。と申しますまゝは、私ともだけでせ
現に地元の区長会或いは観光協会や会合あたりでいたし
ましても、どうもそういう気分がいわゆる気分ということ
表現したいと思ひますが、出てきてゐるのではないかといふこ
とを申し上げるに過ぎないと思ひます。情勢や変化の具体
的にと申しますと、別に具体的なものはなかつたわけござい
ますが、空気のうでで申し上げたわけでございます。

それから先ほど説明の趣旨からいうならば、何もこの際
この復元資金の条例は廃止する必要はないんではないか。
こういう中意見でございしますが、これは先般の議会でも申し
上げました。この条例は里見城を作る基金の積立金では
ないという見解を条例第一条にございすように復元に関

する計画の推進をはかる基金として積み立てたんである。
当時の事情は先般申しましたように地元と市とともども
手をにぎってこの際でいこうとやないかというときに市だけ安
閑としていこうはおかしいじゃないか。こういうことでその気分を
盛り上げる基金として一応百万を市で持とうということか
あつたときの提案説明にもございましたようにいわば、呼ぶ水
のために資金金を積上げてゐるのだ。こういうことでございまして
里見城を築城するためという嚴たる目的のため積
立金条例ではなかつたわけでございます。

従いまして、その後条例制定の目的が少しぼやけてしまつたう
でござつて誤解を招くということとでございまして、この際、廃止
した方がいいではないか。それから、さらにいうならば、あの当時は
盛んに復元論が台頭してゐた時代でございまして、里見城
の過去う姿に復元論が台頭してゐた時代でございまして

里見城の過去姿に復元するという事でございますが、
それやら、数年たちますが、この復元論につきまゝではまだ
いさもって厚着の間にはつきりした線が出ていないという事も
ございます。こういうことが理由でさらにそうまゝにして置
くのでなく、今後城山は先ほど申しまゝのように除々にそ
うした環境整備して将来はできるかもしれない。里見城
を夢みながら、環境整備をやっているというのでありま
してその条例を廃止したからといって城を依らないという
ことは全然関係がないというふうに私もは思っている
わけでございます。

そういうことでございますので、一応こういう条例は廃止も
しよってすっきりしたもふにしてやっで行こうと思はないかとい
うのが私も見解でございます。

。二二番（君塚喜三君）ただいま助役さんは城ブームは終わったという

見解をお迷いになった。この点について私はまずもう一度、
 市答弁を願うわけなんです。が現在、県と千葉市の共同
 計画によって、「次々鼻公園」一体に一大文化センターを計画
 しようとしてゐることは、やはり承知通りであります。一々もそ
 う中の一つといふ――そして池上六階展望台付、天守閣型の
 博物館も近く着手するといふ段階にあると聞いておりま
 す。こういった点を助役さんは、どのように考えてゐるか。「次々
 鼻公園」と天守閣は、それこそ、実在性に乏しいといわれ
 ております。にもかかわらず、あえてこのような企画に立ち
 いるということをして、どうように私は理解したらいいか。この
 点についてお答え願ひたい。

またもう一点として、積立金条例がこれは城を作る
 ための基金、積み立てではないのだ。呼び水的なものなんだ。
 こういう答弁であつた。それで、そうあつてはなるべく、そういうな

夢を実現したい。そういうなところに持つていけることを願って。
まだという市答弁がなされてゐる。

推進するためには、そういう夢に近づけていこうというのに、糸
例を廃止せねばならぬのか。私にもどうも理解ができない。
重ねて市賛同いたします。

・助役（小島武男君）千葉市の「友の森公園」の問題で
すが、私は深くはまだわかっておりませんが、新聞か何かで見た
ような気はいたします。おそらくあそこも天守閣を持た
減かどうかということは、素人でわかりませんが、おそらく観
念的なものになるのではないかと、いうふうに考えております。
この点につきましても、くわしいことは私存じません。

それから、私が説明の中で将来できるから、そういう城もあり
得るという意味のことを申し上げたんですが、たな上げで
置くということとは、そういうことでございまして、今、できません。

が、やがてときがきて、そういう場合になつたら、でも差
一つかえないものであつて、これは今後、問題になるわけで
ございます。それと今申します、里見復元資金の積
立金とは、本質的に関係のないものであるという見解でござ
いますので、右前がちつと似ておりますので、誤解を更
けますが、この条例の本質はあくまで、減を依るにや、資金
ではないということでございます。

これは参考のために申上げますが、先般三十二年ですわ。
市庁舎積立金というのを市が初めて制定したことがござ
います。この条例の形態を、一覽になればよくおわか
りになると思ひますが、こうした積立金条例には、必ずず
年度をきめます。例えば、この庁舎でありますると、三カ年
間の年限をきまゝて、毎年五百万円以上を積み立て
るのだという制限条例を設けまゝて、義務づけて、予算を

積み立てております。

庁舎の場合、三年で予定通り三千万近い積立金を得ましたので庁舎建設の年度の当初には、それを廃止いたしまして一般取源にその積立金は繰り入れて処置してある。こういうふうな積立金条例はやはり目的のためにする場合には、漫然と予算の範囲内であるということではなく、やはり義務づけて積み立てをしないと本当の積み立てにはならないのでありまして、ここにあります居城積立金のごとき場合、おろずからその性質を異にしてまいとうとうムードを盛り上げること、呼び水として市が百万円出す、こういうことを解釈を重くしてお願ひするわけでございます。

お気持ちなどはよくわかりますけれども、法令の根拠、性格、ということも質問と思われますので、不本意ながら、そういうふうに申し上げざるを得ないで、ありまして、ようく承

願います。

ニニ番（君塚喜三君）いざいでも、市条創り廃止、こういう大きな問題なんです。ーかも地元に非常に大きな影響を及ぼす。地元とは、あなたがおっしゃる地元部落なんだ。

こういう大きな問題でありますので、再三廃止についてはよくお打ち合わせになっておるのか。この点、重めてやり取り申し上げます。

助役（小出武男君）地元部落と申しましても、私もこういう提案をする以上は、その当時を思い出し、まして関係方面の統括的な意見と申しますか。そういうた気分を察知するにすぎませんで、私も取った方法は、区長会の方、観光協会、幹部の方、懇談会、こういうものにはありまして、はかったというところ、語弊があるかもしれませんが、懇談会としますと、やはり私も考えておる線に合っておるのではないかと、こ

いうふうに私もは取ったわけでございまして別に全議を私どもで召集してはかつたようなことはいたてておりません。

。三番(君塚喜三君)もう一度その点についてお伺いいたします。

実は先ほども観光協会館山支部長福原氏が鈴木光氏と同行しております。今いましてその点について確認をいたしまして我々は積立金条例が廃止されるということについては全然知りません。ところが昨日助役さんから聞きますと、地元もよく賛成だ。聞いた方がほかにもいうところもある。高いところによっていろいろある。我々には納得がいかない。こういう重要な問題でございましてさらにもっと掘り下げていただくべくできることならば常在委員会において徹底的に掘り下げてこの問題を討議の上結論を出していただくことをお願いいたしまして私う質問を打ち切ります。

。市長（本間譲君）城山の開発につきまゝでは、私市長就任前から京成が一億円位出して城を依るという話を聞いておったんですが、観光として城山を開発することは目下急務ということでも私も京成にいまゝていろいろ話したんですが、今年の正月の十日頃でいたが、京成の社長にきていただきまして城山に上つていただきましてよく見てもうた。そうしますと、ぐるっと全部まわつて京成がほーいという幼稚園の跡を見せると、こゝは北向きでだめだということなんです。結局、京成は一億円位かけるならば、それに相当するということでもないんでしうけれども、会社は営利会社ですから、ただ奉仕する会社ではないわけですから、それに見合う程度の土地がほしいというふうなことをいつておるわけです。その土地がないわけですよ。こゝはもう北向きで、地所では困るから見合わせだというふうなこ

とを話があつたんですが、そういう関係からいまして、今地元に非常によい美化運動をやっておる。あなたの方でもだいぶ気を持たしなから、つづつと寄付してもらいたいということをつづつとやろう。つづつというわけにもいかないので、五十万寄付していただければです。ですから、減をしなければ作るといっても、市の方ではできません。またやっているだけでも、そういう大きな会社なんかも、ないと思ひますね。ですから、そういう考え方を、まあ現在、うしをきいて、人の集まるような施設を作ることが、私は急務だと思ひます。今、山々美化運動に対して、地元の方々も協力なさって、二百万、募金して、おきまして、相当額集まつて、おきまして、地元の方に感謝申し上げます。よりあえず、美化運動をして、果も展望を、四百万ですか、きまつたようですが、出して作ること、いうことになつておりますから、なかなか金がかかりますから、

だんだんにやっていったらどうかと思います。

将来城ということはいろいろ議論があるわけですが、城ということになるとよほざざいけませんとでさなひと思います。ですから、可能な面からやっていった方がいいと思います。

こういうふうと考えておるわけでございます。

・三番(君塚喜三君)質問を打ち切るといったんですが、市長さんからお言葉がありまゝなもので、ちつと質問を続けろといひたいです。ゆづ承いただきたいと思ひます。

市長さんは、かつて昭和三十五年の五月の話なんです。館山城期成同盟会というこれは、田村前市長のときなんです。いふ具体化に乗り出すといふことで、穂坂氏を会長に選び、そうして、まず第一回の総会をこゝろ片舎で持ったわけ。そのときには、外資導入であるが、市自体において、やるかという質問をふいた。私は市自体においてやりなさいと

いうことを一席ぶつた。そうとき市長さんは、この貧弱な財政で
ちやうどものを依つてもだめなんだ。やるなら下からエレベーター
で止る位うもやをやりなさいといつて外資導入に賛成なさった
ことを中記憶にあると思います。

市長就任前う言質をとらえて伯るほど私もやばな男だ
とは思つておりません。あうとき市長さんは、館山市う商工
会議所会頭としてあうような発言をなさった。従いまゝて私
は、今まで市長さんはちやうどなものではだめなんだというお氣持
はあゝもうだと今日まで信じて参つた。当時う田村市提議
は二千三百万う天守閣。天守閣といつても、田村市長う説明
いまいまい通り議事録にあります通り中には、館山市博物館
館考古記念館といつたような内容、屋上は展望台をなすも
のであゝ。房州一周う天覧台だというようなことをいって説明
なさうておるのだが、そういうたものを依りないといふことで外資導

入に賛成なさった。そうして今ここで市長さんは、四百万円とおっしゃった。先ほど助役さんは、三百五十万とおっしゃった。予算書うときには、確か三百万円だったと記憶してあります。

いずれにしましても、大差はございませんが、これでできた展望台というものは、あなたがおっしゃるちやちやうものでは、だめだとおっしゃった気持といかばでございます。私は何だか、ずいぶん尻っぱみになったような感があります。私を対象としておそろを何もそういったものだけを依れということではなく、まず、そういった中への的なものを建てて、そうして中を郷土資料館ということにすれば、私は郷土資料館ということに申し上げます。管理がたうだが、当然そこに管理人がおることになります。管理着う費用位はそこで得る。そうすれば、植林ということとを、ふかしていても、順当にいく。これから桜を何年植えても育たない。そういう状況の中で、ただ急いで追加予算まできいて

つづいて植えても非常な大きな被害が出てくると思うんで
すが、いかにもそれに対する対策としては、昨日の答弁のあった
ように見回わりをしない、どう程度費用をお払いになるか、
わかりませんが、たまた見回わつてくるとこれは被害状況の
報告位にしか、私はならないのではないか、という気がする。
そういうたものについて、いかにも一石三鳥というような立場か
らお願いをし、主張しておるわけなんだが、市長さんどうし
ても展望台なり依りないということであるならば、それもい
いでしよう。私も天守閣でなければならぬということをし主張し
ておるわけではない。なるべく郷土資料館というふうなものと
し、屋上は展望台になるうだから、展望台はほかに必要ない。
一石三鳥というふうな立場から私は申し上げる。それに管理
着を置くということなら、ほかの仕事を進めることはいい。時代
錯誤ともしやるけれども、これは間違っている。城ブームとい

う言葉自体が間違つてゐる。城なんていうことはどこでもできるというものではない。あそこはいいから依つてやるといつても、そんなものは熱海城の旅館位うものである。あんなものは価値がない。やはり歴史上の土台がなければならぬ。

佐倉の市長は今度溪亭の公約で堀田城の実現を公約していらつゝやいます。おそらくお作りになるでしょう。

今日どこかで城を依つて、そうたけに依つたけれども今日全然見捨てられてかえり見られないというふうな現実がございますか。私は今まで聞きこいた範囲ではございません。

よくこの点をお考えいただきたい。私はこれ以上申しません。ただ良識あるや判断を要望いたしまして打ち切ります。

・副議長（松本藤太郎君）暫時休憩いたします。

午後二時〇二分

休憩

午後二時四〇分

再開

・副議長(松本藤太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
議案第二十七号について質疑を行ないます。

・二三番(中村省吾君)本案につきまゝで非常に紛糾いたしておるわけでございますけれども、私、今までだまつて聞いておたわけでございますが、いろいろこの問題を考えて見ますると、里見氏は城復元資金条例、それもだけ討論しておるという段階から進んでおるような気がしてならないのであります。と申しますのが、こゝもそれによつてどうなるのだということも議員としてものに就いておろうかと思つたわけでございます。たまたま、助役さんや、答弁を聞いてありますと、今はこういう構想が、城ブームというものはなくなつてきて情勢がかわつてきた。一カー、その反面、こゝにかわるべきものをもつと巨額なものを計画してやるんだということも

もう一つあるわけですよ。

ところが予算を見ますと、本年度の百二十万程度の市費の持ち出しだけと私どもが見た場合、そう考えらる。そうなるべくると、今まで助役さんの質問の中では納得いかないうちが出てくる。従って今この問題を解決していくには、いま一歩、この後にかわるべきもうがあるかという構想を明らかにして、もうわない限り解決できないと思ひます。そういう点を今少し明らかにしていただけるならば、おそらくこの点も、君も、君も、納得さううではないか、かように考えるわけでございます。

議事進行的な意見になりまして、私、意見を申し上げるわけなんです。

市長（本間 謙君）城山、構想につきまゝでは、いろいろ案がございまして、これは構想図でありまして、すぐに実施ができて

ない面がありますが、逐次やって参りたいと思つてますが、その手始めにツツと植える、こういうことになったんですが、こちらに構想図がござりますが、城山計画図ということになっておりますが、計画にすぎずと、山を一周自動車で行けるように道を付けようというんです。それに幼稚園の方には郷土資料館、子供の遊び場とかユースホステル、そういうものを作ったり、リフト、そういうもので山を上の方にする。上の方に動物園、梅林、いろいろこういう構想がござります。しかしこれは膨大な費用がかわりますけれども、これに付て逐次やろう。初年度にまず、山をまわいのようというわけで行りますが、構想図はまたあとで皆さんの方に図面をおあげしてもよろしいと思つてます。大きな構想を持ってあります。何億もかかりますが、こういう南苑をいかにかは結局城山というものは救えないと思つてすがね、ですからあまり大いからたまげても困る、こういう構

想図がございます。

・二三番(中村省吾君) だいたい構想ということですが、どういう考えを市が持っているということがはつきり示さねたわけです。

それで私、積玉金条例でございしますが、そういうような市が今後城山をどういう構想に向かって誠実にこの案を実現する、という方向を確認いたして、この原案に賛成したいと思っております。

・三〇番(安藤竜吉君) 結論は同じですが、この条例を設置するとか、廃止するとかいうことは、一つの権威を持った行為ではなからうかと思っております。いや、くも条例を設置した以上は、これを廃止するということは、相当の理由がなければなりません。また、この条例以外に市にはまだまだ廃止しなければならぬ条例もあると思っておりますが、いまさらどうこういってもしょうがないのですが、条例の改廃については

いま少し慎重になつてもういたいということが一つございます。
それから言葉通りさくらえてこゝに食ひ下るということとは、
時間や浪費であると思つて、私は努めて避けたいと思つて
おりますが、先ほどから御役さう市谷弁の中へ復元と
いう言葉が何回か出ておりますが、私は復元という音や味
の定義でございますね、こゝについてお伺ひたい。こゝは私は
城山城が里見城があつたかどうかといふことについて疑念を
持つものでございまして例へば、今津の若松城、小田原の
小田原城のごとき過去において歴然たる城があつて老朽、
或いは戦災をこうむつて復元するのだといううが復元であろ
うと思つておりますが、一から果して里見城があつたかど
うかといふこと。あつたとすればもちろんあそこは山岳城で
ございまして、平城ではないと思ひます。山岳城はどんな
形であつたか、もーないとすれば、こゝに對する復元とい

う言葉はあてはまらぬのではないか。かように考えておりますが、これもお伺いしたい。

それからこの条例の廃止については六年前のことと現在ではかなり食い違いが出ておる。変化も出ておるということはよくわかります。従つて私は、これを善意に解釈いたしまし、てあまり廃止にこだわらんでむしろ、これは発展的廃止であるというふうに解釈したいのでございますが、そこでさらに確認をしたいと思います。今まで助役さんや城山や今後、う開発についていろいろ希望ですか、述べらるゝた。天守閣を作るとか、遊園地を作るとか、将来の構想を述べられております。これが本年度は百万位、予算でございます。ますけれども、単なる、きょうう一つづい、い、がねでない真にこの条例を廃止した以上、施設を構想を今後確実にやつてもらえるかどうか。この点が私は不安でございます。

できるならば、こゝ積み立てう三百万円というものは、開発資金に
必らず回す」という表づけを取りたいのであります。

助役さんの考えではおそろくこの教倍にのぼる開発費用が、
いゝと思う。従つて今後うすう戦政う許す限り廃止した教
倍のもうを城山に導入してもらいたいということをし希望する
のであります。が、こゝは再確認をしてもう今までおつた答
弁がよろうに実行していただけるということになりまう。私は
原案に賛成しないのでございませう。いゝがでございませうが、
助役（小出武男君）お答えいたします。第一点う復えでござい
ますが、復えという解釈は史跡でよく使われまう言葉でござ
います。が、当然根拠があるもようを今はない。一カー、そゝも又
献り史跡なりある種う形態をもとにして想像して昔
うまゝにかえていくが復えではないかと思ひます。よくこゝ近
くで申しますならば古代住居地う復え振つて見ますとそゝ

にいろいろ場所があつたり、柱う場所かと思ふ。そういうところが基礎にかりまゝていろいろ文献から想像して昔あつたと思はれる姿がここに組み立てられるということが復元だと思ひます。全然根拠のないものは復元ではないと思ひます。これは私の考え方でございますが、私どもはそういうふうに取り扱ふわけでございます。

それからこの条創の廃止について考へ方でございますが、これは先ほど基本的なものを申し上げましたが、発展的廃止というお言葉がございまして、これは、まことにこの気持ちに合った表現だろうと思ひます。

私ども本質にはこれは関係のないものですが、先ほどあら申しますように城山の開発問題が非常に台頭して参りまして、たゞで、こういふや、こゝいふもうは、取り除いても、とすつたり、たものによつて、城山の開発をしようという

気持ちにわかりはないのであります。いうなれば、發展的廃止という意味にもそういう点から取れると思ひます。けれど、右言はうと思ひます。

あとは、予算が非常に少ないではないか。三百万円に私は全然とらわれない解釈をしてあります。市長が就任さうなうて城山に投下した金は、二百五十万以上になつてあります。

さらに本年度は、当初予算に百何十万かでございますが、おそろくそうした金では、今までの経費から見ますと足りないではないかと思ひます。こういう場合には、また、おりを見て追加なり適切な方法をもつて城山開発の根本方針にさういうにいくことは、何へんも繰り返す通り、三番議員さん、二番議員さん、質問と同様でございます。この開発に万金を期すということにゆり承願したいと思ひます。

二八番(西村真次君) だいたいその安藤議員のお話に関連する

わけですが、大事な条例を廃止する以上は、それに代わるべき代案がほしい。実行力がほしいということから、この論議になったと思つてあります。ただいま、助役さんから、この決意を承つたので了解いたしました。この案は、この辺でもって質疑を打ち切り、速やかに可決されますように、動議を提出いたします。

・副議長(松本藤太郎君) なお、この質疑もあつたかと存じます。が、議事録上、一八番議員から、この提案もございまして、たゞで、質疑をこの辺で打ち切り、討論省略原案通り可決すること、この質疑ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君) この異議なしと認めます。よつて議案第二十七号は原案通り可決されました。

日程第七議案第二十八号を上程いたします。

・総務課長（山口実君）議案第二十八号指定金融機関の指定
について市説明申し上げます。

初めに提案理由を申し上げます。現在、地方公共団体で賦
務会計制度は、明治以来の制度、そのまゝを踏襲してお
ったものが少なく、今日の会計の実情にそわない点があ
くはないので、この点を検討するために近代的な大体の趣
旨をいたしまして従来、金庫制度を金融機関の指定制度
いわゆる預金制度に改めるものが趣旨でございます。

結論は千葉銀行を今回指定金融機関に指定しようとし
るものでございます。

千葉銀行は永い間、館山市の金庫としておりまして、
千葉銀行を指定しようとするものでございます。

地方自治法、第二百三十五条第二項及び施行令第六十八
条第二項の規定を朗読いたします。

第二百三十五条第二項「市町村は政令で定めるところにより金融機関を指定して市町村の公金に収納または支払の事務を取り扱わせることができる。」施行令、第六十八号第二項「市町村は、地方自治法第二百三十五条第二項の規定により議会が議決を経て、一つの金融機関を指定して当該市町村の公金の収納及び支払の事務を取り扱わせることができる。」のようになつております。以上です。

・副議長(松本藤太郎君)おはかりいたします。本案に対する質疑を打ち切り討論省略原案通り可決することに仰異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君)仰異議なしと認めます。よつて議案第二十八号は原案通り可決されました。

日程第八議案第二十九号を上程いたします。

・社会教育課長（利田正男君）議案第三十九号、市営館山プール
の使用料条例を改正する条例でございますが、従前の条例
によりますと、~~合~~合宿所がプールにございまして三十一畳の室
と二十八畳の室がございしますが、これは従前では昼間だけ
使用する者が百円、昼夜間使用する者が二百円という規
定になっております。本年の使用状況で申しますと、東京の
大学が五団体、県下で四団体、三団体、市内高等学校が
二団体、十団体で百四十九人が八十日使っておるにもかかわ
らず、この規定ですと、一万六千円の使用料だけにかゝるうだい
でござんので、設備としては電灯、食器、炊事場等を使わ
して夜更はない。風呂は自分たちでたわせるということであ
りまして、あまり安いということ、で周囲とか、社教委員の意見もござい
まして、それらの意見も勘案いたしまして、ここに書きまうように
「二百円」を「一人三十円」昼夜間使う場合に「二百円」が

「一人五十円」そういう形になりますと、三十八年度の場合に四万円ばかり増になるので、他市のブルック状況などと比べても無理のないことのように思いますが、少しでも予算増をはかりたい。そういう気持ちで提案いたしました。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（松本藤太郎君）中質疑なしと認めます。

本案は質疑を打ち切り討論省略原案通り可決すヨク
中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（松本藤太郎君）中異議なしと認めます。よって議案第二十九号は原案通り可決さよまいた。

日程第九議案第三十号を上程いたします。

保険課長（池田亮山君）議案第三十号について中説明申し上げ
ます。現在施行されております国民健康保険条例の

中に含まれております。保険料の規定を除きまして、この保険税条例に改めようとするものでございます。

条例に改めます目的と申しますか、それにつきましては、申し上げてみたいと思います。従来施行されております料税とを比較して見ますと、もちろん感懐と申しますか、負担の義務観念の相違が感じられるわけでございます。もつとも料であるからという観念がだいぶ強いわけでございます。

そういうところを是正するために、この際税条例を制定したいというものでございます。それから、市の行政として住民に負担します負担、それもうを料と税と二道で賦課していただきます。そこに矛盾が生じているわけでございまして、住民に負担納付をお願いする段階におきましては、これは、いずれも税であるべきであろうという考えか、それからもう一つは、この四月から実施されることになっております市役所

割と平等割と均等割と四方式で算出しております。
そのような賦課割合でございます。それをどうように是正
するかという問題があるわけでございます。従来は賦課
方法をこの際税に改めまして考えますと、従来は市民税
の均等割を含めたものを所得割の基本として賦課
しておつたわけでございます。税条例になりますと、市民税の
均等割には賦課することができない規定でございます。
従つてその均等割を基本としまして賦課額のどの種別
に割り当てるかということが問題になつてくるわけでござい
ます。以上う点を勘案いたしまして、先ほど申しましたように個々の
世帯と一々の負担額はできるだけ変動は避けた方法を
取りたいということでした。ここに提案したわけでござい
ます。以下、実質的に改正することになります。各条項を重点とい
たしまして、お説明申し上げたいと思ひます。

まず、第一条でございしますが、第一条は、納税義務者の規定でございまして、これは、料の場合といふこともあつてありません。第二条は、賦課方式と、それから、限度額の規定でございまして、これも料の場合といふこともあつてありません。

次に第三条でございします。所得割でございしますが、従来ですと、市民税、そのものを基本にいたしまして、賦課する方式を取つておりました。ところが、ここでは、市民税の所得割、若しくは、総所得金額、若しくは、総所得金額から、諸控除を引いた市民税の課税所得金額、この三つうちのいずれかによらなければならぬ方式でございします。ここで考えまいたが、従来、市民税を基本として賦課してありましたが、これは、均等割を除くと、除かざるにかかわらず、市民税そのものの額は、一定の額が大ききによりまして、所得が多い方ほど所得税、そのものの税額が上つてゐる形態でございします。

それと今まで料で賦課——た場合にはいわゆる所得割
そのものにも自然的に市民税という段階が所得割がある
人。そのように段階がついていたということが考えられます。

そこで考えま——たうが当初に申しま——たように負担額の変動
を避けるために均等割の取りま——てなお残りま——た所得
得割。そのように段階がついていて、これはえう賦課階層
の変動は、さたさないでよろうということ。今回は、市民税の
所得割を賦課標準とする。かように改めておるわけでござ
います。いわゆる従来、所得割の基本に使いま——たもの
のから均等割のきを取った額、市民税を基本にすま
ということでございます。

第四条の資産割でございますが、これは従来、ものと
いふまでもあつておるやう。

第五条でございます。これは、終所得金額を四つう方式

にいはりて配分するやというところでございます。

つまり従来ですと所得割賦課総額が百分の二十を賦課しておた。それから資産割に百分の二十を賦課しておた。それから被保険者の均等割に三十五。世帯平等割に十五。こういう比率で配分して税率を算出しておたわけです。ここで問題になつて参ります。所得割が百分の三十の額でございます。所得割が均等割にやけらなくなつた場合、そこにやけらいた金額は今度は市民税の所得割のみに納める人にかかつていくということになり、総額が百分の三十に相当する額が市民税の所得割を納める人のみにかつていくという現象が起きます。これはつまりに加重されるのが出てくる。そこで所得割に対しては百分の二十二、資産割が百分の二十、被保険者均等割百分の四十一、世帯平等割百分の十五、割合で配分する賦課方法を用いる。

こういうふうな原案を依ったわけでございます。そこでこの配
分率におきまする一応試算して見ましたものが、プリント
してございますが、国民健康保険関係の参考資料、ここで
積算してありますものは、いづれも三十八年度の当初賦課
の数字を用いまして、一応検討して見たわけでございます。
賦課総額の四千二百万余でございますが、そのまゝ一番左方の
所得割三、資産割二、均等割三、五、平等割十五、こ
れが従来のものでございます。

左の方は三十八年度で賦課してあります方法でございます。
そこでただいま申し上げておきますのは、所得割の棟でございます。
ここで百分の三と一して総額の配分する額が千三百万余
でございます。一番上の棟でございます。被保険者に
よる市民税の総額でございます。こゝがいわゆる均等割
を含めまして被保険者の総市民税額でございます。

二、所得割りよりたもうが、いわゆる料率となつてゐるわけでございます。そこで、今の千八百九十二万という市民税額をもつて分析して見ますと、その下に内訳として書いてございまして、八十四万七千六百六十円というのがある。いわゆるその中に市民税の所得割額でございします。それから、七十五万三千二百円、二百二十九万八千五百九十円、これが市民税の均等割でございします。二つに分けまゐります。上は所得割と合せて均等割を納めてゐる人、それから下の方の二百二十九万八千円、或いは市民税の均等割だけを納めてゐる額でございします。こゝのような額で考え合せますと、現在申し上げますと、五万三千円余と、二百二十九万八千円とに賦課しますところ、税率をわけまゐた金額でございします。それから、いわゆる市民税の所得割に賦課しますことに改めますと、賦課することゝでない金額ができてくるわけでございます。

それを右の方の欄に持ってきて一番上の方の欄に九百四十万八千九百十九円というものは結局七百四十四万という市民税の所得割だけを基本にしてわけました数字でございます。
七百四十四万という方が市民税の所得割総額でございます。改正さいましたものになります。この計算になりますわけでございます。そうしますと市民税の均等割に賦課してあります。たとき九百六十六万二千四百十八円という数字がいわゆるここで所得割としては賦課でさかい数字ということになります。この配分方法でございます。これをどうやうにして配分したら今まで所得割として賦課しておいたものうち賦課でさかくなったものをもういっぺんその世帯に別な形で賦課しなす方法を考えてわけでございます。三百六十六万二千四百十八円という数字を均等割と平等割に再配分しよう。この考えたわけでございます。

ます。均等割と平等割でその世帯に再配分なおります。元通り負担額がき上るだろう。こういうことでございます。三百万余の金額をどうようにしてどうように率で均等割と平等割に賦課—なおすか—ということはいふ条例の均等割が三十五と十五の比率でおりおり用ゐる均等割と平等割に二の額だけを三十五の十五という比率でもういつべん配分—なおす—たわけでございます。そうすると所得割で減ら—た—たものを均等割と平等割でもういつべんその世帯に賦課—た—たを—た—たうことによつて元の必要がき上るのではないか。かように考えなければなりません。

次に均等の問題でございます。一番上の欄に印刷しておりますものは割合の変動でございます。要するに三十分たつたものを均等割、所得割から均等割に賦課

しておりまゝなものを除きまする減ります。それを二十四
資産割りのものはそのまま。今まで均等割で総額が三五%ま
減額してありまゝなのは四一%一五%だったものが一七%こ
ういう割合が成り立つわけでございます。これが条例として
現われておるわけでございます。そこでその下の棟でございま
すが、そういう場合に各世帯にどううに影響を及ぼすか
ということを検討したわけでございます。市、被保険者の
平均四人が標準でございす。被保険者数の四人という
棟を見ていただきますと均等割で三百六十円、平等割で
百二十円、合計四百八十円が増額される額となるわけでご
ざいます。

次の四百円、四百円、三百七十円、四百円、四百円、三百四十円、
三百七十円、三百七十円という棟がございす。これは賦課さ
れなくなる市民税の均等割額の表でございす。その世

帝で所得均等割を納めている場合は四百円とござい
す。二人あります場合は四百円と三百七十円が賦課さ
れております。それから四百円と二つ賦課されているもの四

百四十円、三百七十円とさうに均等割で賦課されている世
帯、それについてさう検討して見たわけでございす。

まず四人の棟を見ますと増額さいます。ただいま申し
上げましたように三百六十円と百二十円合計四百八十円が
増額さいます。分でございます。さう右のよう四百円の棟、四
人の棟をみると四百八十円が所得割から減らさいます。

均等割と平等割で増加になります。四百八十円、いわゆる
今までは四人の世帯帝であります。全然かわりがな
いということが出てくるわけでございす。大体人数が多
くなると均等割の額を減らさうと減らさいます。さうい
う増額さいます額が若干多くなつてくるという現象があります。

人数が足りない場合だと減らさなければならぬ額が多くなる。これは少くない。一人の場合だと減額が四百八十円増額が三百もの。二百十円。こういうことになるわけでございます。

次に実際に賦課された場合のいろいろな世帯を仮定して、ここで四通りほどを見てみたいわけでございます。

現行の料でいいますと、四人世帯で一万二千八百五十円、保険料を賦課してあります。ところが改正をいいた場合は、一万二千八百四十円と、なり十円安くなる。こういうことは税になると、賦課標準を百円単位で切りますので、

若干端数があつたわけでございます。四人家庭ですと大体同じようになります。次の場合は、改正の場合の均等割が四百円と三百七十円と二つ、その世帯で納めている場合の比較でございます。その場合料でございますが、一万二千八百五十円はわかりません。それが改正後

の条例によりまして、一万二千三百六十円というふうになります。これも端数計算の関係でございます。

それから一人のところでは申しますと千七百八十円が千五百十円、このように下つてくるわけです。以上が第五条の改正の分析でございます。所得が少なくて人数が多い場合は均等割で上つてくるわけでございます。この人たちに對しては、まことに遺憾だと思つたわけでございます。ただそこで私たちが考えますのは、条例の十二条にございますが、低所得者層の軽減の問題があるわけでございます。この軽減は相當の軽減がなされてゐるわけでございます。人数が多くて所得がごく少ないという方々は低所得者層の軽減に相當する方がほとんどであつたという想像でございます。その軽減をいふもうを勘案いたしますと十分にその人なりもふえるということは考えられないという

結論に到達して本案になった次第でございます。

本来ならば百分の幾つという率で百分率の条例を
さめようが本来の姿でございます。

ただ国民健康保険の条例はいわゆる昨年度当初の療
養給付に充てる費用の百分の七十五の額を賦課するとい
うことになっておりますので、百分の幾つという条例を依つてお
きますといわゆる所要額というバランスが常に年々一
つないわけでございます。そこでやむを得ず幾つを幾つで除
いて得た数という条例を作っておるわけでございます。

次に第六条でございますが、これは前条例とわかつておりま
せん第七條でございますが、これは納期でございます。これも
従来通りでございます。ただここでわかつておりますのは、従
来の納期は二カ月にわたつたものは一期としてきめておられ
つてございます。これを一般税同様の一カ月を納期に改

めたというものでございます。

賦期限の最終日は今まで

と同じ目を用いております。

第八条でございますが、これも今までといふことかわりつた点でございいます。

従来は被保険者の異動に対する賦課修正の問題でございいます。従来は一人減りますと、その翌月から、

保険料を減らす。ふえますと、その次の保険料を増額いたして常に世帯員の異動について、保険料の移動を行なつておたわけでございます。税であります。税の本質から

いって当初に賦課したものと、その都度変更することは好ましくないという通牒があるわけでございます。これも税の

本質からいって常に客体の動いたびに税の調定を変更するとはまずい。世帯そのものが減つたりした場合にのみ

異動修正を行ない、中の世帯員の異動については行わ

ないやだということが、この第八条でわかっておりますと、ござい
ます。

第九条は、暫定賦課でございます。第一期の場合に市民税
の資料がまだと、ういけませんので、第一期は新しい年度のものを
資料として賦課することができませんので、前年度の納額
を六分の一に、たものを一期に暫定的に賦課する。これは、
いままでとかわってありません。

第十条は、暫定賦課に対する修正の申し出でござい
ます。これも従来よりも、かわってありません。

第十一条でございしますが、これは、世帯主が他の保険に入
りまして、その世帯員の中に、国保の被保険者があつた場
合、その世帯員にかゝるところの保険税の規定でござい
ます。その世帯主は、自分は、国保の被保険者でござい
ませんので、世帯員の分を、その世帯主に納付していただく場合で

でございますが、その場合、軽減措置でございます。この場合、第一号の当該世帯主の均等割額を軽減するわけでございます。

第二号の方でございますが、今までの条例でございますと、その世帯の国保の被保険者の数と世帯主とを合わせ、もうた数のゆ数に乗じて得た額を減額する。こういう規定になっております。要するに、その世帯の中に国保の被保険者が二人ありますと三人、三分の一を軽減する。という規定でございます。そうすると、この軽減があまりに少ないように思われる場合が起きていると思うわけでございます。ここで考えまうが、その世帯の被保険者でない世帯主の扶養にかかるといわれる社会保険の非扶養者と国民健康保険の被保険者との割合で軽減する。つまり一番親切ではないか。五人の中で二人社会保険の

人がおつて三人国保の場合には五分の二を引けばいい。三人
社会保険があれば五分の三を軽減すれば、それ世帯主の
所得で生活している者だったら国保と社会保険とここでも
合するような方法で軽減を行なったら一番適切ではないか
というような考え方で第二号を改めたわけでございます。
第十三条でございますがこれは低所得者層の軽減の条
項でございます。これは料率例と全く同じものを使つてお
ります。

次に第十三条でございます。これは一般税もこれと同じ
規定が設けられております。

従来もこれと同じと同様のものが使われておりますが、ただ
付け加えられておりますのは「市長は災害等によつて生活
が著しく困難となった者、その他特別の事情があると認め
らるる者に対しては、」その他特別の事情」ということがあり

ます。従来の規定でございますと生活が著しく困難になつた者というふうになつておりまして、ここで付け加えらるゝた、
「その他特別の事情がある者」この条例が現実に生かされて使われな場合に一定考えらるゝことは先ほど申説明申し上げました世帯員の異動が著しく当初の賦課率も減少して当初の賦課額を納めるのはあまりにきついというふうに感じられた場合には、この「特別の事情」というところで救済的な条項になりはしないか、かように考えているわけでございます。

次に第十四条でございますが、納税告知書の様式でございますが、これは従来のものと変わっておりません。

第十五条は、この条例の規程外に市税条例の準用の規定でございます。

附則でございますが、これは公布の日から施行し三十九年

度から国民健康保険から適用する。ただし、この条文中に
三十八年度までに保険料として賦課しておりまゝたもつた
未納によるものゝ額でございます。三十八年度から国民
健康保険料、従前の条例による。これによって処置する
だということでございます。

附則の二の条創中、前年度から国民健康保険税とあるは
昭和三十九年度に限り、前年度国民健康保険料と読み
かえるものとする。これは新しく税条創を依りまゝな場
合にこの中に前年度保険税という言葉がバーバありま
す。従つて前年度は保険税ではございません。料で
ございますので、各条とも三十九年度におきましては、こ
れは料と読みかえていただく。こういう規定でございま
す。以上
でございます。

〇一八番（西村真次君）まことに不勉強でございますが、きつめて

市丁重なり説明にもかかりませす、さうばかりの事ません
 だだ配分方法について非常に市苦しい点につきまゝて
 は多とすまわけでございますが、その配分方法が賦課総額
 から逆算して方法をきめらいたように取りまわけですが
 大体賦課総額が四千二百六十二万三千三百円というものが
 どこから出てくるものであつかひまことに恐縮でございますが、
 その点について市教援願いたいことと、それからもう一つ、結果
 的に見まゝて増額まゝな世帯数と減額まゝな世帯数と
 データーのようになもすがございまして、教えていたのだといと
 思ひます。

・保険課長(池田亮二君) まず最初に賦課総額の問題でござ
 います。ここで申し上げます。賦課総額は昭和三十八年
 度のものをそのまま使つたものでございます。賦課総額
 のきめ方はさうも予算の保険税のところでも説明申し

上げまいたけれどもその年度の年間の医療費の給付に要する経費が百八十七五を賦課しなければならぬという規定でございます。従つて療養給付費が多くなりますと賦課総額も多くなるということです。

ここで使つております四千二百万余というものは、三十八年度当初におきまして賦課した数字をそのまま用ひまして、三十八年度の賦課したものを新しく改正した場合にそのままの姿でこのように各世帯の金額がかわるめということをこの表で考えて見たわけでございます。

片指摘のとおり賦課総額から逆算して作ったものと相違ございません。考え方はこれだけのものを賦課します場合に古い規定と新しく改正しようとする規定とでどうふうに各世帯の負担額が変動するやというところを見ようとしたわけでございます。減額されたものと増額されたものと申しま

すか、そのデーターは持っておりません。

二八番（西村真次君）療養給付費の額というのは各病院からデーターがくるわけですか。

保険課長（池田亮山君）療養給付費と申しますのは、このプリントの一番最初を見ていただければわかるんですが、要するに三十九年度保険給付費見込額を算定する欄で、このようにして算出しているわけでございます。

一番（吉田勇治郎君）市説明でわかったようなわからないような計数的にむずかしいところがございますが、一二伺いたいと思います。なかなか緻密な計算をしておられる。まことに感謝する。敬意を持つんですが、ただ一つに配するのは国民健康保険の会費というものは、何といえますか。不適格収入者、一次産業に携わる者が非常に多く率を占めておるといふこと、その点におきまして一番心配することは所得割が、

百分の三十が十二、資産割というものは、すえ置き、そのはわかえりまどに持ていつたかと申しますと、個人、世帯割、ということは一、般、低所得者といいますが、一次産業に携わつておる百姓や漁師が入つておる。所得税を出さないという人たちが非常に階層が広くて従つて生活もなかなか苦しい。その点について所得税を出す人は結構だから所得税を出すような人に多く見てもらうということも考慮するものが考えらるべきではなからうか。不適格収入者というのと、大それたものではありませんが、そういうような階層が国民健康保険の件に多いからもう少しこれは市長さんにお尋ねいたしますが、健康保険の料率は上らぬといつても上つておる。上らなければ、彈正はできていかなひ。こういうふうにお考えである。こゝにはわかえりになるべく少くする意味からして、一般財源から多少なり投入して国民健康保険階層の

二 自由市論
楽な方法を講ずる考えはございませんか。そう二点を
お尋ねいたします。

・保険課長（池田亮山君）市民税の所得割を納める階層
をもっと多く賦課したらという中意見のようにな私承わり
まいた。ところで考えて見ますと、このプリントの世帯区
分のうち市民税所得税を持つておる世帯数は千五百九十
八世帯でございます。終被保険者世帯数は二一％に相当
いたします。従つてここで、そのままいままでの市民税の均等
割に賦課しておりまうたもう、そうまゝ賦課しますと千
三百万余の保険料の所得割を二一％の被保険者世
帯数でしむなければならぬ。これはあまりに膨大で
あつたということが考えられます。

いま一つのことを研究して見たわけでございますが、市に把
握さるものもいろいろ方法と申しますか、あつたわけござい

ます。当市の場合は、均等割を所得割の基本から除き、
たことによつて保険税の均等割と平等割に振りかえまゝで
も先ほど申説明申し上げるやうに、大体今までと大きな
変動は、きたさない。ただ、その場合に考えられますことは、
こゝまゝの状態で将来本案を施行という考えではござい
ません。ただ、私たちが考えまゝなことは、料から、税に移行し
てゐた場合に今までのものと大差のない状態です。税とし
て税でない。かように考えてこゝのようにしたわけでございます。
市長（本間義君）国民健康保険は、独立採算制でやることをた
てまえとしておりますが、ただ赤字になる場合に一般財源
から繰り入るとのことです……

一 番（吉田勇治郎君）ただ今の市答弁了解しますが、一つは
要望申し上げます。

独立採算制を標榜することは、たてまえとして、市長さん

の申さる通りでございますが、でき得る限り軽減の措置
ということも今後考慮に入れていることとを要望いたします
・三三番(高橋文治君)に、今、課長さんの熱心な説明で本
当に苦勞さへしていることは十分お察しいたします。私も
あまりよくわかりないうてでございます。

なおさうばについて取年度よりこの算定方法でやります
という位、増額さへするものであります。私、計算が違
うかもしれませんが、約一人当り七百円以上増額さへすると思
います。が、もしこれだけ増額さへするということになりますと、国
民健康保険も私、もううしろに毎日医者にわかつている人は
多くいません。わかつていない人が多い。これだけ増額した
らば、現在医療給付は、世帯主は七割、ほかのもうは
五割給付でございますが、三十八年度は別に繰り入れも
やらないで順調に運営していくようにあります。

一般の方でも割給付にできまうからして、その不安を解消するような方法はありませんか。その点をお聞きたいです。保険課長(池田亮山君)や指摘うとあり、若干の値上げに付、プリントの最後にあります。現在、三十九年度の当初予算で見こしたところ、前年度と同様に標準を切り下して一応仮想として算出しました。一番右のものとさせていただきます。

ところで、被保険者の受診状況を見ますと、年間を通じて、全然医者にいからないという世帯はほとんど皆無でございます。むしろ、絶対ないと言いつていいほど、最近、保険というものを、使われております。従って、年々医療費の値上りも当然のことと考えます。それを得ない状況だと考えております。それからもう一つ、七割給付の点でございますが、次の三十一号議案でお願いすることになっております。

すので中止承願います。

・三三番(高橋文治君)了解いたしますが、一かしと百円も
 上りますと被保険者の方はあまり上りという気持ちを持
 ちまうて文句を言い始めますので、先ほど申し上げた
 が、今まで契約入る方も一かいですんであるから、今後契約入
 りでもして全部と割給付ということにできれば大へんい
 いと思ひますが、……

・保険課長(池田亮山君)お説の通り、と割給付は、私たち
 の非心願と申しますか、そういつたような考え方を持っており
 まうて、せむと割給付に踏み切ることに努力いたしたいと
 思っております。

・二九番(鈴木市蔵君)課長さんにちよつとお伺ひたいと思ひ
 ますが、各議員がおつた通り、私もおつたか、わかり
 ないか、見当がつかないのですが、あなたが、数学的に示され

た所得割が八千二百円に対して百分の二十という問題は
所得割という八千二百円というものは、どういふ計算であ
うか。この點を一つとそれと同時にとくと私として聞か
ないことは、三十七年度の決算委員会において健康保険
が八百万という黒字が出た。それを決算まで金庫の
中に入っていて取り過ぎではないか。取り過ぎのものは、還
付をなせないかと私は決算委員会のように発言し
たことがあった。本年度は、私の数字が間違っているかもし
いせんが、一千万、幾らという黒字になつてゐる。それを五
百万というものをろんだらきうう説明では、更正予算に
入つて来年度は繰越金としてというふうな、やう説明を
伺つたんだが、私のいふんとするところは、毎年健康保険
でもうけている。それにもかわらうず毎年上つてゐる。どう
もこれは、考えられない。こゝ前も八百万か六百万かもうけ

ていて、今年はまだ一千万になつて繰越金に持つていく。
 毎年余分な財源をふところに入れて運用しているという
 ことが考えらる。たまには一年位はぴつたりと予算を充
 してやつたらどうかと思う。この健康保険が所得割とゆ
 財産割とか平等割というものが一對しては答えがでてい
 ると思うが、現在まだ今日^{きょう}は十三日で税務署の所得もきま
 らない。市役所の市民税の申告もまだよくいゝをきめら
 れたと思う。予算だからさうあるべきだが、どういふふう
 にすまふのであるか。それとさううの説明の五百万円の繰
 越金というものは、本当に繰り越さるものであるか。こ
 う点を伺つて見たいと思います。

・保険課長（池田亮少君）まず最初に参考におしよめた表
 の八千二百円という所得割の賦課標準でございます。
 これはもちろん、仮定の数字でございます。この表は三十八

年度で賦課しよいたものをそのまま今度で改正条例に置き
かえよいたときにどうようにそれを変動するかとこの比較の
表だけでありまして、これが三十九年度の賦課額でも率でも
ございせん。その点や了解願いたいと思ひます。

それから繰越金の問題でございす。三十七年度、繰越
金千百二万余円ございす。これは三十八年度、当初予
算うときにも中説明申し上げましたが千百万余の繰越金
の中からまず、当初計上しよいたものが五百万円軽減の
ために用いております。なお、その後繰越額が千程
度出た場合には、五百万の中、二百万をプラスいたし
て計七百万円を保険料の軽減に充てると申し上げてお
ります。その通りに当初の賦課額から七百万円を整
減して賦課してあるわけでございす。差引き千百万円
から七百万円を引きますと四百万円程度が実質的に三

十七年度から三十八年度に繰り越された額ということ
でございます。さうや説明申し上げました当初予算
の五百万という数字は三十八年度予算を執行しよた
曉にあらであらうと思わいます。繰り越しを見込額を
計上した。かように市説明申し上げたつもりでございます。
。二九番（鈴木市蔵君）もう一つ伺いたいんですが、繰越金と
いうものは現在では国から市の方へ参つておらないだが、
その金がかきて初めて繰り越しということがいえると思つた
ですが、たまには繰越金がないような予算編成をして
見たらどうか。他市を聞いてみると一般会計から一番繰
員のあつた通り、三百万乃至四百万というものを繰り
入れておまといふことを聞か及んでおるんですが、また今年
は八百円上った。こゝ向題についてはくどいようござい
ます。市長さんは市民のために一般会計から三百

万が一五百万円を繰り入れを要望したいと私は思いますが、
今後追加予算のようなときには是非そうしていただきたい。
これは要望でございますから、答弁はおりません。

副議長(松本藤太郎君)休憩いたします。

午後四時二分 休憩

午後四時三十分 再開

副議長(松本藤太郎君)休憩前に引き続き議事を続けます。

六番(秋山六三郎君) いままでかなり質問がありましたが、私
等十三条の「著しく生活が困難になつた者」に対して減免措
置ができるという項がありますが、これは市当局といひ
ますか、基準というものが、一応考えてあるのかどうか。こ
う点について伺ひたいです。

・保険課長(池田亮山君) 災害等による場合でございます。

その他場合は、特にことという取り上げて申し上げるものもないわけでございます。

・副議長(松本藤太郎君) おはかりいたします。なお多数教りや質疑があろうかと思ひますが、予算に関することは予算案質疑でしていただき、本案に対する質疑を打ち切りたいと思ひますが、や、異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君) や、異議なしと認めます。

重ねておはかりいたします。本案に対する討論を省略原案通り可決することにや、異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君) や、異議なしと認めます。よって議案第三十号は原案通り可決されました。

日程第十議案第三十一号を上程いたします。

・保険課長（池田亮山君）議案第三十一号について、中説明いたします。本案は三十号におきまして、料肉保の条項を税に改めようとして、その条項を従来より保険条例から除きますが、改正が主でございます。逐条申し上げますと、四条の新設でございますが、一被保険者とする外国人等という問題でございます。

従来日本人以外の国籍を有する者に対しては、被保険者とならないことになっておたわけでございます。ところが現実に申しますと、従来ずっと昔、保険組合時代よりいわれる朝鮮人の一部が慣例的に二三被保険者として残つてきております。これは当然保険法の改正で除かれなければならぬ者でございますが、なかなか、除くということもでき得ないで、一種の慣行として残つてきておるもの

うが、ごく少数でございます。そこで一ぱらば朝鮮人の方たちから市民税その他市民として義務を果してゐるのに国民健康保険に入らないという方は、不都合ではないかという申し出が、過去数年間続いてきております。

しかし、条例で除外することに規定してありますので、現在までは除く方針できておりまして、いろいろ考えて見ますと、この一部残つてゐる人といわゆる国保に加入したいという希望を持つてゐる人たちとの間にへだたりができてくる。不均衡な取り扱いということになつてくるわけでございます。朝鮮人の人たちも果て保険料に対して加入の陳情を出してゐるわけでございます。朝鮮人の中にも果て保険料に付するに従つて果てその市の義務に尽してゐる。被保険者とする規定を設けることを指導しておるわけでございます。

その條に添いまして、当市も朝鮮人を被保険者とする
ことができるといふ規定を一応設けようとするものでござい
ます。次に第五條の二でございしますが、これは、高橋議員から、中實
向を受け、七割給付でございします。

次に第七條の二でございします。こゝ改正は、実質的に有
限手当金は、千二百円を支給することになりはござい
ません。支給方法に從來の規定でございしますと、六カ月後
に千二百円を支給する規定になつておたわけでござい
ますが、事務機構の改善に伴いまして、六カ月後に支給
することは困難である。事務上煩瑣であるといふことと
共済等も出生の都度、千二百円を直ちに支給してい
る事例が多いわけでもございします。

当市も出生いたゞく場合に被保険者が出生した
場合、千二百円を支給する。こういうふうに変更したい

と思います。

第六章の改正は、従来は、国民健康保険料となっており、
「たもろ」を税という名称に改正したものでございます。

十二条で「この市は世帯主に対して別に定めるところ」と
申しますのは、先ほど申したとおり、たもろの保険料条
例によつて出たのだということでございます。

附則でございますが、第五条の七割給付は、昭和四十年
一月一日から、適用する、という附則が付けられておるわけ
でございます。

十五番（小沢恵太郎君）全面的に了解いたしますが、第四
条の「朝鮮」という言葉が使つてあるが、条例という面
においてお話の上では、「朝鮮」でも結構だと思ひますが、
「朝鮮」とは現在呼んでないと思ふが、この点お尋ねい
たします。

・保険課長(池田亮山君) 実は私たちもニラことについて調べて見なければなりません。外国人登録法によりますとすべて一括して「朝鮮」という国名を用いておられますので、それを用いております。

・副議長(松本藤太郎君) 以上で質疑を打ち切り討論省略、原案通り可決することに仰る異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君) 仰る異議なしと認めます。よって議案第三十一号は原案通り可決されました。

日程第十一 議案第三十二号を上程いたします。

・福祉事務所長(鶴沢貫寛君) 議案第三十二号につきまして中説明申し上げます。

館山市青少年問題協議会設置条例の制定でございますが、この青少年問題協議会法というのは昭和三

十八年法律第八十三号で公布されまして、全国各都道府県市町村にこの協議会が設置されつつあるわけでございします。本県におきましても、県におきましては、設置済でございしますが、各市町村におきましては、未設置のところが多くあるわけでございします。

また、友納知事が選任いたしまして、相当の熱意を示されまして、各市町村によつて協議会の設置を要請があつたわけでございします。

館山市におきましても、今回、この条例を設定しようというものでございします。

なお、この条例案でございしますが、これは、県の準則によるものでございまして、特に市として加えた事項はございしません。

第一条は目的、第二条は所掌事務、第三条は構成の

メンバーでございます。第四条は、学識経験者、任期三年ということでございます。

五条は、会長と副会長、任務でございます。会長及び副会長、任務でございます。会長は市長がなるということでございます。

第六条は、会議、第七条、専門委員、第八条、幹事、第九条、事務の処理、福祉事務所において処理するという条項でございます。

三四番（山本昇君）青少年の健全育成という問題について、これは一番大事なことで、特に政府におきましても、人依りということ、大きくこの問題をとり上げらることは結構でございますが、こういう機関ができることも、この案に対しては、私も全面的に賛成でございます。

どうも、屋上屋という言葉がよくございますが、こういう機

関がたくある。一つの例を申し上げますと、館山市におきましても、青少年育成協議会というものがあつて、或いはまた学校と敬言寮と家庭連絡会議、こういうもの、いろいろあるが、一切こういうものを含めて、こういうものが、できるのであるか、或いは今までの機関は機関としてやつて、そうして、これが新たにできるものであるか、この点が第一点、さらに青少年健全育成協議会というものは、市が中心になつて指導されていくと思ひますが、これは教育委員会が中心になつて指導されていくように聞きます。先般果下、高等学校校長と、PTA、学生会がございまして、私、その席に出席いたしました。その席上もやはりこの問題が取り上げられて、いろいろな議論の對象になつたのでございます。これができ得るならば、一本化して強力なる青少年の健全育成のため、指導機関という立場においてやつて

もらいたい。こういう要望が強かつたのでございます。

こういふことがすでに協議され協議されてこういふものが
できたのか。その点も合わせて市説明を願いたい。

・福祉社事務所長（鶴沢貴寛君）ただ今、市質肉に對しま
してお答えいたします。ただ今、やはり屋上屋を重ね
おるというくらいがあるわけでございます。

教育委員会におきまして青少年健全育成委員会と
いうものがございまして、これが先行いたため、この問題
協議会の方があとから割り込んでいくようになったところにな
つていますわけでございますが、この一本化ということは、確か
に問題でございまして、これは将来、上司の方へも考えて
いただくように、私の方から進言してございます。この条例
を上程するに當つて、どういふことを協議されたかという
ことでございまして、この問題もただいま申し上げました

通り館山市におきましても一本化するという方針に
将来なることだと思います。

一番(吉田勇治郎君)説明の中にあつたやもしれませんが第
二条の「法第六条第二項の規定による意見見具申に關
すること」ということはどうのことですか。

福祉事務所長(鶴天貫寛君)地方協議会は青少年の指
導・育成、保護及び教練に關することについて、当該地方
公共団体や長及びその区域内にある関係機関に對して
意見と求むることとができるという項でございます。

副議長(松本藤太郎君)以上で質疑も打ち切り、討論論省略
原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)中異議なしと認めます。よつて議
案第三十二号は原案通り可決されました。

日程第十二 議案第三十三号を上程いたします。

消防署長(岩田定君) 議案第三十三号について、中説明申し上げて、
館中取具の被服鉢貸与に關する条例の一部を改正する
条例の制定について、でございますが、これは非常勤特別取
であり、消防団員に盛夏略衣を四年間に一着
貸与するという条例でございます。現在消防団員に
對しまして冬制服一着と制帽一個が貸与されておるだけ
でございますが、夏は火災出勤、或いは訓練、そういった
な場合に非常に氣候に合わぬ服装であるわけでござ
います。これを見苦しくない服装にしたい、ございまして十分
活躍していただきたい。こういう趣旨のものでございます。
よろしく審議うほどをお願いいたします。

二三番(中村省吾君) 表で使期間四十八月、保存期間四
十八月になっておりますが、この関係はどうかっておりますか。

品質はどういうものであるか。

消防署長(岩田実君) お答えいたします。使用期間は四十八カ月は着用する期間でございます。四十八ヶ月経過いたしましたものは、保存期間と取りまいて、これは一応保存を置いて置く期間でございます。使用期間中に損取ったような場合は、これは消防本部の方で返納をする。使用期間を過ぎた場合には、一応本人のものになる。こういったようなことになっております。品質は現在消防署員が着用しておりますカーキ色のものと、同質、同品のものがございます。

・三番(中村省吾君) ちょっと保存期間の点がわからん(カ)んですが、使用期間というのは例えば五月から十一月までとか、そういうことと、使用期間というのではないですか。冬制服は一般的に冬と称する期間を着用する。使用期間というのは、そういう意味のものではないんですか。

品質の点ももう少し説明願いたい。と同時に形はどんなものであつても合せてお願いしたい。

消防署長(岩田英君)使用期間でございますが、確におつゝる通り着用期間、使用期間、こゝが別がはつきり、つゝる様に解します。こゝは、実際に消防団員が保有してありまして、そして夏季、大体七月、十月頃から九月十五日あるは、二十日位、一番暑い時期に着用するものでございまして、ですから使用期間というものは、要するに消防団員が保有してなければならぬ期間でございます。こういうふうに解釈願います。布地でございしますが、こゝは、前には本綿でございしますが、現在はテترون混紡という布でございまして、色はカーキ色でございます。こゝはワイシャツと同系のものでございまして、ズボンと上着の上からバンドをかける。こういったような夏、我々が着用しておりますものと、同じものでございます。

・二三番(中村省吾君)そうなるワイシャツ型でございますね。そう
いうものを一組ということは、夏の期間は非常に汗をかく
そういうものを一組でよいから洗濯をどうするのだ。

その場合に着用できない。少くとも三日に一回位洗濯し
なければならぬ。こういうものを着用させる場合には、二組
を同時に着用させて、そうして保存期間終了ということが
常識だろうと思います。一着だけぐ夏毎して四年間も
着用させる。これはとても着られません。もう一つは、使用期
間が納得できないのですが、やはり着用期間が誤りでは
ないか。

・消防署長(岩田実君)第一点の一着ではぼうぼうにわたって
使用に耐えなくなるうではないかという中実向でございます
すが、確かに火災出勤いたしまして、非常によどんで参
りまして、すぐ一時間或いは二時間後に火災がありまして

出勤するという場合に当然支障が生ずる場合がござい
ます。いままで、館山市の大失火発生状況からいたしまして
また夏季の訓練状況からいたしまして一着で別々いま
まで、ことを考えますと、そうあり支障はないのではないか
というふうに考えております。

それから第三点の使用期間でございしますが、四年間一着
保有してありまして、夏の大失火出勤、あるいは訓練の場
合にこそ盛夏略衣を着用してあるということになります
でございます。そう方が引き続き消防団員でありますから
は四年経過いたしましてたならばまた一着渡すわけでござい
ます。その場合に前の着がそのまま他に譲るとか或いは切って
しまうとか、そういったことなくあと四年間だけやはり新しいもの
の交代用として取って置かなければならぬ。これが保存期
間でございます。

二三番(中村省吾君) そうう意味ですと、私は反対いたします。
一着、もうを八年間ということですよ。 そういうものを八年
間貸与させて保存するということは保存させる方が無理
だ。だからどうう布地だということをお願いいたします。一般
に夏に着ているものは薄地だ。ワイシャツ型だ。 そういう
ものを八年間着らねるかどうか。絶対に着らねいと思ひ
ます。夏の期間の使用期間という中でもって着用期間
ではなからうかということをお願いいたします。

消防署署長(岩田良君) これは消防団費員でございます。

副議長(松本藤太郎君) これにて質疑を打ち切り討論省
略原案通り可決することにより異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君) 中異議なしと認めます。 よって議
案第三十三号は原案通り可決されました。

日程第三十三議案第三十四号を上程いたします。

・総務課長（山口実君）議案第三十四号について、説明申し上げます。
第八条でございしますが、連絡事務委託料の増加に伴う条
例の改正でございまして、本年四月から従来より倍額程度
上げて支給しようとするものでございまして、その限度額が
従来より倍額になる条例の規定でございします。

・副議長（松本藤太郎君）質疑を打ち切り討論省略原案
通り可決することに、（中略）異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・副議長（松本藤太郎君）中異議なしと認めます。よって議
案第三十四号は原案通り可決さるゝことと。

日程第三十四議案第三十五号を上程いたします。

・総務課長（山口実君）議案第三十五号監査委員条例につ
いて説明申し上げます。

提案の趣旨でございすが、このたびは財務会計制度の改革によって監査委員の定数、それから法令に基く監査期限の規定、それから監査事務局を設けようとするものでございします。

第一条は目的でございします。法令に示された以外のものは、これできめるといふ目的でございします。

第二条は法に基く監査委員の定数を本市は二名としようとするものでございします。

第三条は請求、または監査の要求があつた場合は、監査委員は十日以内に監査に着手しなければならぬという規定でございします。

第四条でございすが、請願関係の主な場合の監査でございします。これは二十日以内に処置しなければならぬと規定したものでございします。

次に定規検査でございます。このことにつきまゝではおおむね二日前にそれぞれ通知をする。

第六条は出納検査でございます。出納検査の日を規定したのでございます。

第七条でございますが、決算或いは基金、そういったものの監査をした場合に監査委員は四十日以内に意見書を付して市長に回付する。四十日という日を明記したものでございます。監査事務局の設置でございます。

市町村は監査事務局は任意でございしますが、今回改正に伴いまして監査の重要性から事務局を設けようとするものでございます。

第九条は事務局の職員、定数は市町村職員定数条例によつて定める。

次に規程の委任条項でございます。この内容の通りで

ございます。

この条例は昭和三十九年四月一日から施行いたしまして、従来よりはこの条例議決によりまして廃止に目ざわけてございます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)中質疑なしと認めます。討論省略原案通り可決すまじ中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)中異議なしと認めます。よって議案第三十五号は原案通り可決さしめられた。

日程についておはかりいたします。

日程第十五議案第三十六号乃至日程第十九議案第四十号を一括して議題といたしたいと思います。

これに中異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

副議長（松本藤太郎君）中異議なしと認めます。よつて日程は変更されません。

議案第三十六号乃至第四十号を一括して議題といたします。
庶務課長（千場伊右エ門君）議案第三十六号から四十号まで一括して中説明申し上げます。

昭和三十八年六月に地方自治法の一部改正がありまして、地方自治法第二百四十四条の二に「地方公共団体は法律または法律に基く政令に特別の定めがあるものを除くほかは公営施設を設置及び管理に關する事項については条例でこれを定めなければならない」ということになりまして、公営施設の種類によつて個別的に条例でこれを設置しなけいばいけないということになつたのでございます。

教育関係の公営施設といたし、まして上げられ

すなは、小學校でございすが、こゝは議案第三十六号にございすが小學校の設置条例でございす。

學校教育法第二十九条の規定によりまして、市に設置義務があるが同法には設置の方法については規定がないので、この改正法の二百二十四条の二の第一項の規定によりまして、公営の施設として条例で設置するものでございす。

次、三十七号の中學校の設置関係でございすが、中學校には、學校教育法第四十条によつて小學校的関係のもうが適用されておりますので、小學校の場合と同様に設置条例を設けるものでございす。

高等學校及び幼稚園でございすが、こゝは議案第三十八号、三十九号にございすが、市は任意に設置でありすが、學校教育法には、設置の方法について規定がないので、改正法によりまして、公営の施設といひまして、条例で

設置するものでございます。

次に議案第四十号、熊本市、熊本市プール設置条例でございますが、プールは、教育機関でありまして、公営の施設であります。関係上、改正法によりまして、条例で設置するものでございまして、各議案ともすでに設置してあるものでございまして、条例が設けてありませんので、このたび、条例として設置するものでございます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（松本藤太郎君）中實疑なしと認めます。討論省略。原案通り可決することに、中實疑ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（松本藤太郎君）中實疑なしと認めます。よって議案第三十六号乃至第四十号はいずれも原案通り可決さるまいな。

日程第二十議案第四十一号を上程いたします。

秘書課長（小倉隆男君）議案第四十一号について市説明申し上げます。

本条例は一月市議会におきまして事務改善の概要というものをあぐりいたしまして種々事務改善の方法につきまして市検討をいたしたわけでございますが、十一月市議会におきまして予算上の種々の議決をいたしたまいて、その後連日連夜四月一日からの改善に對しまして準備をいたしておる次第であります。その状況の結果市本来のサービス向上という意味におきまして市役所内、内部組織を改正いたしまして、能率的な行政をやるといふことで窓口事務を統合するといふことによりまして各課においてあります事務を一つ一つ市民課に統合するといふことに拘連しておき

まするところの部課設置条例の部課の配置状況がわ
つて参ったために現在制定しております部課設置条例の
全面改正をここに願ひた次第でございます。その概略
を申し上げますとまず市民に対するサービス部内とい
なして市民課調査課収納課調査課は大体市
民の実態把握税の実態を調査する課収納はた
いまはでう概念から申します税金だけということであ
らうゆる市が市民から徴収いたすものをこの収納課で
全部取り扱うというサービスを主体とするサービスライン
そのに内部的なサービスといなして市役所内部の機
構の管理をいたしますところの秘書課庶務課財政
課それから外に對します事業ラインと申しますか、市
が施策を執行していく上におきます事業課とい
うものに対して商工観光課農林水産課保健衛生

生課、衛生施設課、土木課、建築課を設置いたし
 まして、そうしてその他にセネラルスタッフといひますか、統
 合的行政の一般行政を高く改良するといふ者によ
 り、おきまして企画課、現在、課を統廃合いたし、こ
 れに設置いたしたいと思ひます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（松本藤太郎君）中質疑なしと認めます。
 本案は討論省略原案通り可決するに中異議あり
 ませぬか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（松本藤太郎君）中異議なしと認めます。よって議
 案第四十一号は原案通り可決せよとす。
 日程についておはかりいたします。

議案第四十二号と四十三号を一括して議題といたしたいと

思っています。ニよって中興議ありませんか。

(「中興議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)中興議なしと認めます。よって日程は変更さしまうた。

議案第四十二号、四十三号を一括して議題といたします。

厚生課長(吉田耕一君)議案第四十二号、四十三号を中興説明申し上げます。

今回、自治法の一部改正に伴いまして、二百四十四条の二の普通地方公共団体は公共の施設を設置及び管理に関する事項は条例でこれを定めなくてはいけないのだというよう改正に伴いまして、鎌倉市と斎場、設置及び管理に関する条例の制定、次の火葬場及び葬祭用具の設置及び管理に関する条例、この二案を上程した次第でございます。内容につきましては、旧来よりと変わりがござ

いせんうで省略させていたのだと存じます。

ただ四十三号の一表う二でございます。そううち祭壇という
うがございます。使用料におきまして千五百円一本にな
おそうという考え方でございます。従来一等二等という
用語を使いまゝて一等が千五百円、二等が千円、施主花
というをまぜまして千二百円であつたものを一二等なく
祭壇を千五百円に改めようとするものがわかつております。
二四番(島野茂樹郎君)字句の説明をお願いいたします。
と畜場へ設置条例う方なんです。別表の最後のとく
というは、その解釈について。

。厚生課長(吉田耕一君)はやく言いますと、子供ということござ
います。生後一年未満。

。一番(吉田勇治郎君)葬祭用具が市にあるかどうか知らな
い人がある。これは広報でありで、P R してやつて皆さんに

あるものはよほど金を出さなければ使えないのだ。最後を
かざるためにやつてもらいたい。それから隣隔り地に持つて
きていた方がいい。

・厚生課長（吉田耕一君）遠近におかわらず、祭壇のわり付け
まで実施してあります。

・一番（吉田勇治郎君）そうすれば安いものですが、最後を飾ゆる
ということになるとその意味を皆さんに徹底さしていただきたい
と思います。

・二九番（鈴木市蔵君）これはできるわけがないわ。市長さんにお願
いいたします。

現在ほとんど火葬になっておるが、祭壇は市で貸すやうとい
うて喜んで利用しておるのですが、火葬場に持つていくときに
市には車がない。こういう問題ですね。これはほとんど議員の
方はこゝろ考えておると思うんですが、市内のところに頼む。

目録文編に頼むと山内さんに連絡していただかないと、車
は出せない。山内さんが困くとおこるかもしれないが、船形わ
う火葬場までくると非常に金がかかる。この点、市長さ
んよくお考えになって、我々もいつかはごやかいになまと思
っていますから、ぜひ車を求めてもらいたい。その車、その
ものは今度建設課で買うあれを使って上からおぼせる
ものを作ればそれで結構だと思ひますから、そういう方法を
市長さんに取りつていただきたい。これは実行できますか。

・市長（本間 環君）アメリカにいきまうたときには火葬場を
やう人は一番地位が高い人がやっておった。ベリンハム
市長さんも葬儀屋さんですね。そのときが議長さんが、
葬儀屋、あちらの方では葬儀屋というところ、立派な人が
やっておる。人が七くなつて最後を金うしてやまといふこと
で、崇高なことである。こういう觀念からやっておりますが

私はごもっともだと思ひます。

日本では葬儀屋というと嫌気が悪いといひますが、觀念が違ひます。鈴木さんのお話では市の方でやるにしても相当金がかかる。係員も市の人でなければいけないと思ひます。相当研究が必要があると思ひます。私ゝ親戚で市ゝ道具を借りてやるんですが、非常に安くても千五百円ですが、持つてきて取りにくく。こんないいサービスはない。葬儀屋の方では五千円でさめなところをやってみると大千八百円備え付けのものがある。いろいろあつてはかに高い。鈴木さんのお話は皆さんが痛切にお考へになつていてなかなかできないことではございますが、よく検討して皆さんと折相談して参りたいと思ひますが、すぐにはどうこうといふことは困難と思ひます。

副議長(松本藤太郎君) 本案に対する質疑を打ち切り討

論省略原案通り可決することにより異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)中異議なしと認めます。よって議

案第四十二号、四十三号はいずれも原案通り可決せよと

す。日程第二十三、議案第四十四号を上程いたします。

福祉事務所長(鴉沢貫光君)議案第四十四号について中説

明いたします。これも自治法の一部改正によって改正する

ものでございますが、ただ今まで、館山市営住宅管理系

例とありまうたうを、設置及び管理条例に改め別表で

市営住宅の名称及び位置を表わしたもうてございます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)中質疑なしと認めます。討論省

略原案通り可決することにより異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長（松本藤太郎君）市議院に認めます。

よって議案第四十四号は原案通り可決せよと決定した。

日程第三十四 議案第四十五号を上程いたします。

・総務課長（山口実君）議案第四十五号を市説明申し上げます。
館山市の財政調整資金に対する設置・管理及び処分
を条例で定めようとするものでございます。

第一条の目的でございます。法四条の三、第一項の内容
でございますが、これはここにございます。第四條基金の処
分一項から五項こういった場合に備えるために基金を
設ける。こういう法律の内容でございます。

同様に法七条一項でございます。これは歳入歳出剩
余金の二分之一、こういった財源をもって設けることができ
る。こういう内容でございます。

次に第二條でございますが、積み立て及び運用処理の

方法でございしますが、地方自治法二百三十三条、ニが規定でございしますが、決算で剰余金が出た場合は、予備に計上せずに繰り越し処置をせずに基金にする
ことができるという規定でございします。ニは基金から生ずる利子の処置でございします。

第三条は基金の管理の方法でございします。

第四条は基金の処分でございしますが、やはり目的と処分内容は、大体同様のもうでございします。

第五条は、繰替運用について、このように定めようとするものでございします。

この条例議決によりまして、適用条項といたしまして従来、館山市財政調整積立金の全額をこの条例の規定によって基金として処理しようとするものでございします。

・一六番(内武夫君)第五条の繰替運用について中説明をもう
す。具体的にお願いたいと思います。

条文、市金を歳計現金に入して使う場合に利息を払
うのですか。

・総務課長(山口英君)内容にありますように、確実な繰戻し
方法、ここにありますがその期間、及び利息を定めて基金に
歳計現金に繰りかえをする。

・一六番(内武夫君)市長が財政上必要と認めるときに確実
な繰戻し方法というものはどういうふうにやるのか。そうして
利息というものは、財政調整基金も市の金なんですすが、そ
れを歳計現金に繰り入るを確実な方法で繰り戻す。
そうして半年とか三カ月とか使う場合に利息を市が払
うのかどうか。あとでゆっくり研究して市答弁いただい
ても結構です。

・終務課長（山口実君）この点につきましては規則を設けて基金の運営管理に關する明細が規則でできておられんからそれによつてさらに研究いたしまして確実な繰戻しができるように処置いたします。

・二八番（西村真次君）にだ今う質問に關連してありますが基金の処分する場合の第四條は市議会が議決を経て処分することができるとなつておりますが、ただいまの繰替運用につきまゝでは議会が議決を必要としないように解釈ができます。自由自在に繰りかえ、繰り戻しができるという意味ですか。

・終務課長（山口実君）そう通りでございます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・副議長（松本藤太郎君）市質疑なしと認めます。討論省略原案通り可決することに市異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君)中異議なしと認めます。よって議案第四十五号は、原案通り可決されました。

日程第二十五 議案第四十六号を上程いたします。

・総務課長(山口実君)議案第四十六号について中説明申し上げえます。

今回事務改善の一端といひまして、市で使う物品を基金を設けて処分しようとする内容のものでございます。

ただいま申し上げました基金を設ける場合には、議会の議決を経るということでございますので、ここに申し上げるわけでございます。

一応基金といひまして一般会計より百万円程度繰り出して基金の範囲内でその年度に使う消耗品とか小さい備品とかそういうものを一応年間消費計画によ

つて購入しておくわけでございます。

それを各課から要求する物品をこの基金の中から落し
いくということになるわけでございます。

年間計画によります使用料によりまして相当額のもうを
一回に入札によって買う。こういうことによって良い品物を安く
買える。これがこの基金の趣旨でございます。

第三系物品の種類でございますが、こういうものを研究中
でございます。

規則によつて消耗品はどの程度、備品はどの程度、そういう
ものを考えております。

第四条にだいたひ申し上げました物品の購入計画でございます
第五系物品の払出価格でございます。これは市長がその取得
価格を基準として別に定めようとするものでございます。

第六系基金に属する現金の過不足を生じた整理の

方法でございます。一般会計の歳入歳出予算に計上して整理するということが原則でございます。

第七条は運用の処理によつて生ずる利子収益の処理でございますが、やはり一般会計に編入することになるわけですが、特にこの基金に關する制度はまだ研究中でございます。今後さらに規則を設けて万全を期したいと思ひます。一応規則を設けるにいたし、でも条例によつて規則を定めるわけでございます。ここに条例をお願ひしようとするものでございます。

○大番(岡武夫君) とういう制度は本市で初めてなんでございすが、そこで私も教授を受けるといふような気持ちで質問申し上げます。と申します。結局、これは百万円、現金を別に置いてものを買ふときにすぐ、それから現金で払つてやる。少一でも安いものを買ふ。とういう制度だと思ひますが、そう

考えてよろしくうございますか。

それの一つと私、最初に感得まいなことは、それと同時に細かいものを買うときに一々収入役が小切手を切るのか、めんどうだからそういうものを買うときに金をすぐ出してやるというふうに想像いたのですが、こういう意味も含んであります。か、どうですか。それからこの基金の管理者は当然収入役であると思いますがどうであるのか。

第六条七条で基金の収益のことが出ておりますが、これがおかしいと思うのですが、市が自分の基金でもうをかっていくわけですか。五十万でもって買って、五十万でそれまた各課に配分するだけかとも、これはどういう意味であるか。以上この点についてお答え願います。

・総務課長(山口実君) 第一点は申趣旨の通りでございます。

次に収入役が今後小切手をもって品物を買うということが

原則になるわけでございますが、一応この点につきましては
安くてよい品物を適正な価格で入れによって賣う。これが原
則でございます。

次に基金の品物の管理でございますが、管理は市長によつ
て行ないます。

次に第七条基金から生ずる収益の点でございますが、私
も不審な点があつたので検討しておいたわけでございますが、基
金から、私どもも考へている運用によりましては、収益は生ずる
結果にならないと思ひますが、一応国から参りまして準原則
そういったものをそろそろ踏襲いたしましてここに設けた次
オでございます。

。一六番(岡武夫君)ちよつとふに落ちない点がございしますが、総務
課長さんも初めてで今後皆さんで研究してやっていたのかな
ければならぬと思ひます。賛成はこゝで打ち切ります。

・二四番(志村信依君)にだいまう問題は金額は百万円でわずかでございます。二ヶがどうしてもなければいけないものです。

今まで各課はどんな需用費で落してある。こう考えます。二重にならうな気がいたしますが、これがないために大へん不自由です。

・総務課長(山口実君)この百万円の基金、使い方でございますが、前年度の一ヶ月か二ヶ月位の消耗品の使用料をただいま調べております。それがどの程度でありますか。その使用料の額によつては三月分になるか、四月分になるかわからない。現在調査中でございますが、調査された結果、前年度の実績等を考慮いたしましてこの基金を元に購入するということでございます。

・一四番(志村信依君)実績だと申されますが、実績があるからここで手算ができてゐる。需用費でみんな落してそれで

な上、この規則が必要ですか。

秘書課長（小倉澄男君）事務改善に関係があるから私からお答えさせていただきます。

従来各課で諸用紙とか非常に細かいものが使用されてお
ります。すが、そういうものをその必要度合に応じて整理の方に
相談いたしまして購入してあるのが現在の状況でございますが
そういうことをしますと非常に事務が煩瑣になるといふこ
とで一般会計から百万円基金をいたしまして一つの
基金会計として年間にどの程度の消耗品を使用す
るか例えて申し上げるならば、建設課あたりでくさを買
紙諸用紙ボールペンインクそういう日常の必需品でござ
います。すが、そういうものが、取員が必要な場合にすぐ調
達ができる。こういう場合に基金を設けましてその時期
時期において一括して購入をしてその基金物品倉庫

の中に保管いたし物品倉庫から必要に応じて各課は収入役を通じまして伝票によつてさらにそれを売るといふことになつてゐます。そのためその差額が収益が出る。取得価格と販売価格と差という事になつてゐてございす。

小さなものに附しまして各課が一々決着を取つて購入しなければならぬ煩瑣を避けるために一括購入による廉価の購入。そういうところが主眼でございまして常に買つて置くといふことにすりまして値段も下る。必要となつて用が足りるといふことでもございす。

○六番(岡武夫君) 一点だけ伺つておきたいと思ひます。先ほど市長が管理するのだというお話でございまして、直接市長さんが見るわけではないわけですね。課々どう課が主管することになるか。

・秘書課長（小倉澄男君）これは市長が管理するものではござい
ませんで、市長は第四条にある購入計画を立てるとい
うことでございまして、管理はあくまでも収入役室でござい
ます。

・副議長（松本藤太郎君）以上で質疑を打ち切り、討論省略、採
案通り可決することに、中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・副議長（松本藤太郎君）中異議なしと認めます。よって議案
第四十六号は原案通り可決と見なす。

おはかりいたします。今議時間の定刻も迫りまうたが、議事
が都合上、本日、議事日程を終りますまで、時間を延
長いたしたいと思います。こゝに中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・副議長（松本藤太郎君）中異議なしと認めます。よって

時間は延長を要し、休憩いたします。

午後五時四十五分 休憩

午後五時五十八分 再開

・副議長(松本藤太郎君)休憩前に引き続き会議を開き

ます。日程第二十六 議案第四十七号を上程いたします。

・総務課長(山口実君)議案第四十七号について説明申し上げます。

この趣旨でございますが、今回地方財政会計制度がかわった

ことについて、従来行政財産の使用は、一般者に対する使

用は禁じられておたうてございますが、この二条にあります。

「第二百三十八条の四第三項」の規定でございますが、行

政財産は、その用途または目的を妨げない限度において

これを使用者として、この法律が定めたうでございす。

ただしこの使用させる場合に使用料を取るのだというのとになったのでございます。

第三条で使用料を納付した場合に課付しないという規定を設けました。

第四条 使用料の減免の規定でございます。

第五条の過料でございますが、この過料の金額は五倍に相当する額、これは準則がきたものをそのまゝうったものでございまして、

別表で庁舎を使用した場合、学校を使用した場合の金額、これらの金額についても第四条、こういった条項を適用させまして全く取らないというわけにはいきませんが、公用とみなした公用に準ずるものでございまして、減免措置を適用していただくべく軽減する方法で運用していきたいと思っております。

〇一〇番(辻田実君) だいたいは説明で四条等について減免の措置

がかなり大幅にあるということでございますけれども、
 一丁から私は現在、館の事情に即してこの条例
 をこのままうのみにていくとかなり、面について影響
 を及ぼす状態があるのではないかと思います。と申します
 のは、この中にある学校等、いろんな営利団体やそういうと
 ころで使用する場合には、こういう額で差をつける
 と思っておりますけれども、別表にもありますように講演会
 研究会、集会等、場合でございますが、私は次のような
 点についてどうようにお考えになっておるか、その点を伺
 いたいわけでございます。

一つは、この使用について範囲をどうように使用する限度と
 取務の範囲をどういうふうに考えるかということござ
 います。

例えば、P・T・Aの役員とか私たちが学校にいきまして、

会議をする場合には、許可を取って使用料を払うという形
が出てくる。さらには現在、各地域におきまゝで公民館集金
所、館山市においてはそういうところが主になる。従いまゝで、
青年団、婦人会、農事研究会等、学校や裁縫室等使
つてゐる。こういう場合にそういう団体に支障がある。さら
には、市役所の中におきまゝで取組組合、市、取務で、
多くはやはり目的によつて会議室を使う場合に許可の
対象になると思うが、この点については、いろいろな考
えになつてゐるか。この対象者は、どういう範囲が含まれ
るか、お伺いしたい。さらにもう一つ、この施設の中に校庭
等が含まれるかどうかということです。

館山市に市営の競技場とか、野球場というものはございま
せん。従いまゝで、これから春になりますと、朝から晩まで
ふたわり立ちわり使う。運動場の使用等がそういう

もぐんにかかっていゝのか。校舎だけなのか。こゝ点についてお伺いしたいと思うわけでございます。

・総務課長（山口実君）こゝ条例はいわゆる法律に基づくもうでございまして第六条の規則の委任。こういった点でさらに規則でもって今言った青年団とかP・T・Aとかならば公的なものに対してはこゝ額を減ずる。そういうことはさらに規則によって検討したいと思ひます。条例といふことでこういった額を限度として徴収するのだということでは了解いただきます。

・一〇番（辻田実君）そういう点につきまして私は現在、館山市に集会所の施設だとか研究の施設例えば公民館とか青年館とか婦人会館とか。そういうものが十分充足している中においてはそういう問題は起きないと思ひますが私青年団でやってゐたときにもほかの会場を借り

たことはなくて九九%が学校施設の、市の施設というものを
使っておるという状態でございます。さらにそれだけで
なく、ほかのいろいろな研究団体というものが全部学校
とか出張所、生活改善の料理教室からいけば、何で
も学校とかそういうものを使わなければならぬという実
態の中でむしろこういう規則を設けること、もう一つ、減
を規則の中できめていくということは、技術的に困難性が
ある。そう思う。

このことによつて私ははつきりとした公明奨推准委員会
とか、丁、A青年団とか、そういうものについては、簡単に
公的要素を持っておるのだという形で免除するという規
定ができるかわかりませんが、一か一ながら公的なものに
認めらる以前の研究団体とか、井戸端会議の延
長した市民の盛り上げ、そういう大切な研究会、集會

サークルとかグループ、そういう社教活動全般について
 こういう規制がやはり影響を及ぼすおそれがあるというふう
 に思うわけです。

その点についてはどうなのか。ただ上からきたから天下りにやつた
 のか。その点付け加えていただきたい。

・総務課長（山口 実君）これは行政財産の使用に関する特
 例を設けたのでございます。

ただ今申し上げました第二条の行政財産の目的を妨げな
 い限度においてはなほよく一般市民に使用させていい。

従来禁止されておったものをこれだけ一般に広く供すること
 という趣旨でございまして使用の場合で特に営利を目的と
 する事業者が使用した場合、只今いった青年団とか婦
 人会とか、そういうなれば公共的な使用、こういう場合、特に
 第四条におきまして市長の意見により勘案して取らないよ

うな方針でいきなれと思います。

二番(辻田実君) 学校、建物につきましても、地域、公共的なものについては、学校、教育に支障のない限り使用していいという教育委員会の方針がある。従来、差利を目的とするものに貸すとか、思想をおびた団体について、主催するものに貸してはならないという制限はあったわけでございまして、明らかにこの第二条はそういうものでも金をおかせばいいのだということになるわけです。そういうことをやることによって従来、制限されたもの以外については、私は現在の状態ではほとんど全部が減免しなけければならないという館山市の実情ではないかと思うんですけれども、その点についてはどういうお考えですか。

それから校庭、その他、付帯設備が入るかどうか、中庭、弁をお願いいたいです。

・総務課長（山口実君）第一点でございますが、従来この法律では行政財産につきましては、このような法律の条文がなかったわけでございます。今回新たにこういう条文を設けることによつて、こういうものを使用する場合には、条則によつて使用料を取るんだという規定ができたわけでございまして、一応、条則によりまして限度額をここに示したわけでございますが、ただ今申しましたように、集会の内容等によりましては、さらに第六条の規則によりまして検討いたしまして緩和の措置をしないと考へております。さらに校庭とか、そういうのもやはり公共財産として使用した場合でございますが、これも規則等で検討いたしまして使用料を取っていきたいと思ひます。

・一番（辻田実君）私はそういう考え方に五つと問題があると思つたわけですね。

私ゝ知ってゐる範囲で旧農村におきましては、部落う人が
農作業に出るゝに学校や校庭に集まろうということ
簡単に集まつてそこで一時間、二時間、作物品評会や
うなことをやつて帰るということもある。さらには農家組
にしろと学校や生徒が放課後子供まつて学校に入
つてくる。それについて集団的にくると許可をしなければ
ならないという問題も起きてくる。こうなつてくると農
村においても、市街地においても同様なんです。市当
局はそういう面についてきちんと条例でさめておいても
差別がつかなくなる危険がある。その点はどうなんです
か。

・総務課長（山口実君）こゝ規則や趣旨でございますけれ
ども、今まで行政財産は貸さない方針だったりでござ
います。が、やはり目的外にもサービスをして貸して

もいゝ。こゝろいう住民に対してうサービスう法律でござ
います。

一〇番(辻田実君)公共財産を貸さないというふうに思
つておりましたが、学校の場合なんでも青年団、そう
いうものについては貸してやうということ、教育に支障
がない場合に貸すというふうに学校の場合あると
思っています。

私は市の方合より学校を主として考えるわけでご
いまして特に貸すような規定がないということもい
っておりますが、これは憲法による公共の財産については
宗教思想については制限されておたわけでございます
してそれ以外の方もについては住民に対しては公開し
ていく方針があつたのであります。そこに根本的に
食の権利があるようにございますけれども、その点に

私がいつてゐることについて誤つてゐるや、その点はつきりして
いただきたい。

・市長（本間譲君）従来、P・T・Aとか、婦人会とか、学校側
係の行事がございますね。そういう公共的なものは取ら
ないのが原則で、宗教団体とか、営利を目的とする団
体とかいうようなものが、学校を借りにきますね。そういう場
合に適用するまでであつて、それ他うものは適用しないという
ことではないと思います。

・〇番（辻田実君）私は市長さんがいったように、営利とかそう
いう今まで制限されておつたものについて開放するといふ立場
に立つて、この使用料とか、そういうものが出ておれば、問題はな
い。だが、一か一、そういう趣旨は、この条文の中では、理解
できないといふふうに感ずるゝですけれども。

・助役（小出武男君）今市長が申しましたように、さらに辻田

議員のいわれるように公共の施設はなるべく使用せ
るというがたてまえになっております。

ただ、ここでいろいろ制限——たうは、公用財産の施設
とある程度、嚴格に管理するということたてまえ上、こゝよ
うに四角四面な規則でございしますが、こゝの運用につ
きましては、もちろん従来と、かわりない姿にならなけれ
ばならないと思ひます。

二番(鈴木正一郎君)も伺ひますが、学校、特に夏期
季、或いは冬の休暇、その他を利用して東京あたりか
ら、学校が参ります。そういう場合に学校をも借りて
宿泊滞在するやうな場合、百名泊まるとかという場合
があります。そういう場合のことを考慮して研究されま
して、学校の方にそういう場合にどういうふうに扱
うかということを通算して置いていただきたいと思います。

。総務課長（山口実君）そういった事項につきまゝでは、さらに検討をいたし、まして、万全の措置を取りたいと考えております。

。三番（安藤寛吉君）総務課長さんにお伺いしたいんですが、二条です。使用の許可を受けなければならぬ。許可者は、だれになるのか。それから、この条例は、四月一日から施行するということになっておりますので、すでに三月になれば規則はできていないということですか。

四月一日から施行するものであつて規則ができてもいいんではないかと思ひますが、できていないとすれば、今月中に作らなければならぬと思ひますが、その規則について、今辻田議員やすべてが質問が縣に念をしておる点が十分織り込まれていくわけだと思つておりますが、できた規則を一部どうだいーたいと思つておりますが……

の規定を教えていただきたい。

・総務課長（山口実君）「行政財産は、その用途 または、目的を妨げない限度においてその使用を許可することができ、そのようにならざる限りてこの内容は行政財産は本来公用または公共の目的の達成のために使用されるものであつて、管理及び処分について禁止規定が作られておつたのでございします。」

「行政財産の用途 または、目的を妨げない限度において私人の使用を認める規定を今回作つたわけではございます。」

・一五番（小沢恵太郎君）「ただ今、総務課長が読み上げた事項からいくと使用料を取つたということは別にならうですが、その点いかがでしょうか。」

・総務課長（山口実君）「使用料の件でございしますが、地方公共団体は、該二百三十八条の四 三項の規定による許可を要

けてする行政財産の使用または公共の施設の使用について使用料を徴収することができるとして使用を許可した場合の使用料徴収義務がここにあります。

一五番(小沢恵太郎君)ただ今、総務課長より続々上げた事項やらいくと使用料を取るということは別にならうですが、その点いかがでしょうか。

総務課長(山口実君)使用料の件でございますが、地方公法団体は法律第二百三十八条の四、三項の規定による許可を受けてする行政財産の使用または公共の施設の使用について使用料を徴収することができるとして使用を許可した場合の使用料徴収義務がここにあります。

一五番(小沢恵太郎君)ただ今、使用料を取ることはできるといふことの解釈なんですすが、取らうといふことと取ることとができていふことと、解釈なんですすが、取らうといふことと

取ることができるといふのは、ずいぶん分る。

今までのように使用させておいたものに対して使用料は取らないけれども、あえて差をつけるか、ええ、と思ふ。

ただ、取ることができるといふ面において、差利を目的としてものに對してのみ取るといふような条例に、たういふことではないか。こういう考えを持つが、今後研究していただきたい。この条例をすなわち解散すると、第四條より市長の減免措置の項は、あるけれども、一般的には講堂をその地区民が使用した場合に手数料を取ることがあつた。ええ、だ、という解散ができる。今、館山市の講堂から講堂を建設するときに、いろいろな条件から考えて、まことに市民感情に、そわない条例ではないか。こういう疑義を持つてあります。その点とくと考慮していただきたい。

一八番（西村真次君）第五條につきまゝで、お伺いしたいと思

ううであります。この五条を見ますと、過酷うような感
じがいたします。明らかに刑事上う罰則に類するよ
うな条文ではございませんが、これを「詐偽その他不
正行為による」ということをだれがどこで決定できるか。だれ
が審判官になってどこで過料の判断をくだするか。まことに
むずかしい問題ではないかと思ひます。かりに過料という
ことが決定しても、これを現実徴収する方法をいかにす
るか。どうもこの五条というものは、實際にあつても役に立
たないではないか。いたずらに感情を悪くするだけで實際の
運用面に何の役に立たない。おどかしい条文ではな
いかと思ひますが、五条を削るも考へはございませんか。
どうしても入らなくてはいけない自治法の趣旨でござい
ますか。その点をお伺ひたいと思ひます。

市長(本間 譲君) ことはお説う通りでまことに解釈に

苦む。私が申し上げては失礼ですが、実際においてはき
ないことです。むしろいいでしょう。こちらでも研究でき
ないで上からききなもうをどうしようつけたんですが、それを修
正します。

一八番（西村真次君）修正でまゝしょうか。

副議長（松本藤太郎君）暫時休憩いたします。

午後六時三十一分 休憩

午後六時四十九分 再開

副議長（松本藤太郎君）休憩前に引き続き会議を開
きます。ただ今議題となっております議案第四十七号
については市長より都合により撤回いたりたいと申し
出がありまゐる。

おはかりいたします。こゝを許可することにや異議あり
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)や異議なしと認めます。よつて議
案第四十七号の撤回はこゝを承認することに決定さ
し、

本日の会議はこゝにて延会といいたします。

次回は明三月十四日午前十時開会といいたします。

その議事は本日に引き続き議案第四十八号乃至第
四十九号及び五十一号乃至五十八号の質疑といいたします。

午後六時五十分 延会

本日會議に付し事件

一 議案第四号乃至議案第四十七号

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

辻田 実

石井 正

菊井 敏博

志村 信作

小沢 恵太郎

関 武夫

西村 真次

藤田 好治

保科 忠夫

江田 徳太郎

君塚 喜三

中村 省吾

島野茂樹郎

鈴木 孝

嶋田 繁

山田 教宇

鈴木市蔵

安藤 亀吉

安沢徳順

三沢 節

高橋文治

山本 昇

松本藤太郎

山口 康

欠席議員

安西益男

黒川佐太郎

萩生田七郎

出席事務局取員

第一日目に同じ

出席説明者

第一日目に同じ

